

参加者印象記

グループ I A 市川 智彬

今回ワークショップに参加させていただきとても貴重な経験をする事ができました。参加者の学生は各大学を代表して集められているということもあり、それぞれが熱い想いと深い考えを持っている意識の高い方達でした。そのような方達と、自分も普段から考えていた医療問題、薬剤師のあるべき姿、これからの薬学教育などについて話し合うことで、自分では考えつかなかったような意見を聞くことができ、自分の見識を広げることができたと思います。また、学生間ではどうしても詰めが甘くなってしまうところについては、OB・OG の先輩、タスクフォースの先生、厚労省や文科省の方々のお話を拝聴することで、さらに深くディスカッションできたと思います。このワークショップを通じて、自分の考えを見つめ直し、自分の将来やらなければいけないことについて真剣に考えるきっかけになったことは、とても貴重な経験になったと思います。またこのような機会があれば、ぜひ参加させていただきたいです。最後になりますが、このような素晴らしい機会を与えて下さった日本薬学会の関係者の皆様、ならびにタスクフォースの先生方や先輩方には心より御礼申し上げます。また、活発な議論を共にした多くの仲間に深謝申し上げます。

グループ I A 小山 貴士

「20年後の医療」ということで、私たちが医療現場の前線で活躍している将来について想像しました。私の班では、テクノロジーが発展し、機械化（AI）が普及している世の中になっているだろうと考えました。また、超高齢化社会となり、その対応について考えました。私は議論の中で、今後の薬剤師に求められることは、病院薬剤師や薬局薬剤師の研究者としての自覚を今以上に持つことだと思いました。現在、臨床研究は医師主導ですが、20年後には薬剤師主導の臨床研究が一般的になっていると想像できます。さらに、AI 導入により調剤業務が効率化し、病院では病棟業務に完全にシフトし患者一人一人に関われる時間が増えると思います。薬局では、在宅医療を中心に今後の超高齢化社会に対応することが出来ると思います。一方で、文部科学省の方が話されていた「予測可能な時代を生きる人材像」についての講義の中で、Society5.0 というワードが出てきました。ワークショップ後に Society5.0 の紹介動画を見てみると、動画内で遠隔での一次診療が取り上げられており、未病や予防医療、超高齢化社会への対応、医療費の削減に繋がってくると思いました。

グループ I A 大口 宗一郎

自分は今回のワークショップを通じて、各大学の教育の仕方、それぞれ抱いている医療に対する思いなどが異なるということを感じた。加えて、他の学生の意見を聞くことで多様な考え方をとらえることができ、とても良い刺激となった。20年後の医療の世界を想像するという事は大変難しかったが、自分の想像力を膨らませ、自分が将来どうなっていたいのかを考えるのはとても楽しかった。また、現役の薬剤師の先輩方や厚生労働省の方からの貴重な講演を拝聴し、20年後の薬剤師がどのようなになってほしいか、自分が望む薬剤師の未来は自分たちで変えていかなければならないという意識を持つ大変良いきっかけとなった。今回のワークショップに参加できたことは自分にとって大変有意義なものとなり、今後の人生を変える大きなものだった。最後になりましたが、このような機会を与えてくださった開催関係者の方々、参加された各大学の薬学部の方々、参加することを勧めてくださった自分の研究室の教授に深くお礼を申し上げます。

グループ I A 竹村 美穂

この度、日本薬学会第9回全国学生ワークショップに参加させていただき、普段交流することのできない全国各地の薬学生と交流を深められたことはとても貴重な体験でした。普段の大学生活の中だけでは、「20年後の医療」や「これからの薬学に何が求められるのか」について学生同士で話し合う機会はほとんどありませんでしたが、本ワークショップで様々な学生と意見交換ができ、「どのような医療・社会を、どうやって自分たちで創っていくのか」について考える機会となりました。特に、臨床・行政・研究・教育などの様々な分野に就職する同世代の仲間と、その将来について熱く語り合ったことは、自身のキャリアパスを考える上で非常に刺激的でした。今後も、本ワークショップに参加した仲間たちとの縁を大切に、互いを高め合っていきたいと思えます。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださいました関係者の皆様ならびにタスクフォースの先生方、参加者の皆様に心より御礼申し上げます。

グループ I A 田澤 実名子

今回参加させていただいた全国学生ワークショップは、これからの薬剤師としてどのようなことを考えていかなければならないのか、より深く考えるいい機会になりました。普段の生活の中ではあまり接する事のない、全国の他大学の学生とSGDを行って、自分とは違った目線から様々な意見を聞くことができ、とても良い刺激を受けることができたと感じています。

“自分達が未来の薬剤師として何を創るか”を考えることはとても難しく、最初のうちは今まで培ってきた知識を頼りにしてしまいがちで、はっきりとしたイメージが浮かびませんでした。しかし、グループ内で話し合いをし、他グループの発表や先輩方の講演を聞いていくうちに、イメージが形になっていくのを感じました。このワークショップを通して、以前より広い視点から自分自身が挑戦してみたいことを考えることができたように思います。

最後になりましたが、関係者の方々、参加された学生の皆様に深く感謝申し上げます。このような機会をいただき、本当にありがとうございました。

グループ I A 當眞 美咲

今回、第9回全国学生ワークショップに参加して、有意義な二日間を過ごすことができました。私は積極的に意見を発言することに苦手意識があり、このようなワークショップへの参加は挑戦だったので、かなり不安でした。最初は周囲のレベルの高さに圧倒されていましたが、負けていられないと思い、私なりに精一杯参加できたと思えます。

意見交換・議論の中で、参加者の皆さんは将来のビジョンや自分自身の考えを明確にもっていて、そして多方面にアンテナを張って情報収集し、消化して自分のものにしていくことが伺えました。一方で、自分の視野の狭さや考えの甘さ、発言力や行動力の低さを痛感しましたが、今の時点で自分の弱点に気づけたことは今後の人生において良い刺激となりました。また、最近はずいぶん先の国家試験のことばかり考えてしまっていたのですが、先輩方のお話を伺うことで、これからのことを改めて考える良い機会となり、将来の薬剤師像を再認識、再構築することができました。

最後になりますが、このような貴重な機会を与えてくださった関係者の皆様、そしてIAグループをはじめとする参加者の皆さんに心より御礼申し上げます。

グループ I A 西村 悠汰

直近の状況ではなく、10年、20年後の医療の姿を考えるにあたり、普段一緒にいる大学の人間だけでなく全国の大学在学者と意見を交換しながら、まとめられたことは非常に有意義であったと考える。期間を通して、薬剤師の職能拡大が必要との意見が多く、自分たちが志す薬剤師という職業をみな可能性を多分に含むものであると考え、逆にその専門性をチームの中で発揮できていないと考えているというような印象も受けた。中には薬剤師としての専門性を活用していく良い意見もあったが、医師の負担を減らすための行動や、医師の真似事のように思える意見も多く、薬剤師という職業をどのような形にしたいのか把握しきれないものも多かった。討論の傾向からは医師に対する薬剤師の立場を学生が多少なりとも劣るものと感じているということがあり、医薬品の専門家としてチームの一角を担う薬剤師の1人になる人間として、これからの学生たちにも同じような印象を与えないように努めたいと自分の中で決意を改める良い機会であった。

グループ I A 茂木 結菜

日本薬学会第9回全国学生ワークショップに参加させていただき、2日間という短い時間でしたが、非常に有意義な時間を過ごすことが出来ました。全国69校もの他大学の学生と接することができ、更に、自分たちの未来について熱くディスカッション出来たことは、私にとってこれまでにない刺激となりました。多くのSGDや先生方の講義を通して、「制度は与えられるものではなく、自分たちの手で作るもの」であり、「私たちが、今後の医療・社会を作る」ことを意識するようになりました。今回、縁あってこのワークショップに参加できて、本当に良かったと感じています。現在、学生である私たちが“ALL薬剤師”として未来を担う為に、多くの薬学生がこのようなワークショップに参加することが出来れば良いと思いました。

最後となりますが、ワークショップ開催にご尽力頂いた関係者の皆様、ならびにタスクフォースの先生方、先輩方には心より御礼申し上げます。また、IAグループをはじめ、様々な議論を共にし、多くの刺激を与えてくれた薬学生の仲間に深謝申し上げます。

グループ I B 金内 和也

今回このような薬学生ワークショップに参加することで、他の大学の学生や指導教員と交流して討議を行ったことは大変貴重な経験となりました。また、六年間の薬学教育を経て得た自身の意見を見つめなおすきっかけにもなりました。

私は薬剤師という職業は日本では50年後にはなくなっている、必要とされないのではないかと考えていました。これは大学の講義で医療経済学を学び、米国の薬剤師と比較して職能が少ないと感じたことや、AI・機械の発達によって調剤業務、監査は必要なくなると思ったからでした。しかし、このワークショップで薬剤師が日本の医療において治療方針を考える中でどのような役割を担うのか、研究によって「薬」をどれだけ発展させてきたかに目を向けることで、将来に希望を見出すことができました。

二日間の討議を通じて、これからは予測不可能な時代である。だからこそ自分自身が薬剤師としてやりたいことを考えて行動すれば、目指すべき将来像が見えてくるのだと強く認識しました。

グループ I B 小林 風貴

今回の薬学生ワークショップに参加して、普段知り合うことのできない他校の学生との交流を通して、非常に充実した2日間を過ごすことが出来た。

「未来を創る」というテーマでワークショップに取り組む中で、たった20年で社会が大きく変わってしまうことへの驚きや、今後薬剤師として社会に貢献していくためには「未来でどのような薬剤師が求められるのか」を考えるために、社会がどう変化していくのかをよく考えなければいけないと感じた。

また、今回のワークショップに取り組む中で、未来で求められる薬剤師に必要な能力として、「研究能力」が重要なスキルの1つであると感じたが、他校の学生との会話や講演を聞くうちに、「自分は6年間の学びの中で「研究能力」を十分に養うことが出来なかったのではないかと」と疑問に感じたことが印象的であった。

今回のワークショップで得た経験や新たな視点を、今回のワークショップに参加していない身の回りの学生にも共有し、未来を共に作っていく薬剤師を増やしていきたいと思えます。

グループ I B 小山 雅敏

全国の薬学生が集まり、東京でワークショップが開かれるという話を聞いたのは6月末のことだった。それから、1か月があつという間に経過して当日を迎えた。期待と不安が入り混じった複雑な気持ちで会場に入ると、すでにたくさんの薬学生が集まっており、いよいよ始まるのだと実感した。1日目と2日目を通して、20年後の薬剤師について考えた。20年後というと正直どうなっているのか分からないが、先生方のお話や仲間たちとの議論を通して少しだけ見えた気がした。AIやロボットの普及により単純作業が効率化されていたり、薬剤師が処方権を持っていたりと、環境や薬剤師の職能が大きく変化していると考えられる。そして20年後の未来を創るのは私たちであるという自覚を持ち、そのために何ができるのかを今から考えていきたい。2日間という短い時間だったが、色々な意見や考えに触れることができ、自分の見聞がさらに広がったように感じた。また、自分の足りない部分についても改めて認識できたので、今後の課題としたい。最後に今回のようなワークショップがこれからも続いていけばよいと感じた。

グループ I B 末松 利崇

今回のワークショップでは、非常に有意義な時間を過ごすことができた。初対面の学生と話し合いながら取り組むことは、高いコミュニケーション能力が必要であり、またそれが出来たことは良い経験になった。

SGDでは、多くの意見が出され、その中で皆がどのような未来をイメージしているかを話し合えた点は、自分の未来を創っていく上で参考になった。このようなワークショップの機会がないと、他大学の学生と交流することはあまり無い。少ない時間の中で多くの意見交換ができたことは、周りの支援のおかげであり、サポートして頂いた関係者の方々に感謝したい。

SGDだけでなく、様々な方の話を聴くことができ、勉強になった。これからの予測不能な時代に対応していくだけの土台を作り上げていく大切さを実感したため、今後の大学生活で、多くのことを吸収していけるように生活を見直していきたいと思う。

最後に今回のワークショップでは、普段とは異なる環境で不安もあったが、非常に有意義な時間を過ごすことができた。参加できて幸せであった。

グループ I B 床 紀枝

今回、第9回全国学生ワークショップに参加させていただき、短い期間ではありましたが、非常に貴重な経験をすることができました。

他大学の学生との議論を交わす中で、薬剤師や自分自身の将来について深く考えることができたのはもちろんのこと、大学も進路もばらばらの学生の様々な視点の意見を聞くことができたのは、私にとってとても刺激的で有意義なものでした。さらに、様々な方の講演を聞く中で、予測不能な未来にも柔軟に対応できる基盤をつくること、また、未来の薬剤師像をつくっていくのは私たち自身であるという意識を常に持ち、主体的に行動できる薬剤師になることが必要だと感じました。このワークショップで学んだことや感じたこと、薬剤師という職に対する熱意を今後の薬剤師としての人生に活かすとともに、大学に持ち帰り、共有することで、活躍できる薬剤師を増やしていきたいと思います。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださいました関係者の皆様と、2日間をともに過ごし議論を交わした仲間に深く感謝いたします。

グループ I B 仁井田 怜子

この度、日本薬学会第9回全国学生ワークショップに参加させていただき、全国各地の薬学生と2日間にわたり交流を深められたことは大変貴重な体験でした。

全国の薬学生とディスカッションを行い、新たな知見や考えに触れ、多くの刺激を得られた一方で、自分の視野の狭さや知識不足なども痛感致しました。

ワークショップ全体を通して、予測不能な薬剤師の未来を作るためには、生涯研究、生涯自己研鑽、薬剤師としてプロフェッショナルな仕事を行う義務があると学びました。また、ALL薬剤師で物事を考えることで、幅広い視点を持つことができ、多様な意見を述べられることを実感致しました。

今後は、専門家としての薬の知識、医療人としての責任感、医療人としての覚悟を有した薬剤師になり、誰からも信頼される薬剤師を目指して日々努力して参ります。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださいました日本薬学会の皆様、各大学の先生方や卒業生の皆様、2日間にわたり意見交換をした薬学生の皆、ワークショップに関わる全ての皆様に深く御礼申し上げます。

グループ I B 原野 寛子

今回のWSでは、同じ薬学生でも薬学部の学問に対する考え方、薬剤師に対する考え方が様々であることを、雑談したりディスカッションしたりする中で感じ、視野が広がった刺激的な二日間でした。ディスカッション中はいろんな角度からの意見が出ることに楽しさを感じ、発表者のプレゼンは聞いていてどれもハイレベルで、自分にはないものを持っている他大学の学生の姿に常に圧倒されていました。

私自身、今まで自分の薬剤師像は考えていても、20年後の薬剤師や医療の在り方について深く考えたことがありませんでした。しかし、現状に満足せず薬学全体の未来を真剣に考えて行動していくことの大切さを学ばせていただきました。今回のWSの経験から20年後は予測不可能だからこそ、私たちが主役となって未来を創っていくという目標意識を持つことができました。また、他大学の薬学生と話すことで、勉強に対するモチベーションも上がりました。活躍の場はそれぞれ違うけれど、ALL薬剤師としてこれからも刺激し合い高め合っていきたいです。私は病院薬剤師としてプロフェッショナルになれるよう自己研鑽に励んで、社会に貢献できる存在になりたいと強く感じました。

最後に、今回貴重な機会を与えてくださった関係者の皆様、共に過ごした学生の皆様に心から感謝申し上げます。二日間本当にありがとうございました。

グループ I B 村山 咲

日本薬学会第9回全国学生ワークショップに参加させていただき、短い期間ではありましたが非常に有意義な時間を過ごさせていただきました。普段交流することのできない全国の薬学部生とのたくさんの討論や何気ない会話を通して、様々な視点からの意見に触れることができ、自身の視野を広げるとてもいい機会になったと思います。

今回のテーマは「医療そして社会への貢献 ～私たちが未来を創ろう～」というものでした。SGD および講演を通して、将来薬剤師として活躍するために、そして社会を創るためにどのようなことが必要なのかをとっても考えさせられました。他の薬学生の意見をたくさん聞くことで自分の考えの未熟さを知り、またなんとなく今まで他人事のようにとらえていたことを自分のこととして考えることができ、とても刺激を受けました。ワークショップ全体を通して「自分」を主語にして物事と向き合っていくことの大切さを、再度実感できたと思います。

最後になりましたが、今回のワークショップのような素晴らしい機会を与えてくださいました日本薬学会の方、ならびに関係者の皆様方に心より御礼申し上げます。

グループ I C 石田 悠

2日間のワークショップを通して、未来の医療を私たちが作るために何をすべきなのか考えることができた。20年後の自分を想像する機会は大学でもあったが、その時の自分がその時の社会のニーズに応えることをしているのかは想像していなかった。20年後の医療は予測不可能で、みんなの意見や講義を聞くと、自分が目指す薬剤師は本当に必要なかと不安も少し感じた。しかし、予測不能であるからこそ、その時代に生きるために生涯を通して知識や思考力を身に付け、自分が目指す薬剤師が社会の医療を改善する信念を持ち続けなければならない。そのための知識や技術、精神などの土台形成を行う必要性を感じた。また、全国の大学の薬学生と交流できたことは非常に貴重な経験で、多くの刺激をもらった。独創的な発想を持つ人やプレゼン能力が高い人、距離を縮めるのが上手で誰とでも仲良くなれる人などたくさんの個性溢れる人たちがいて、みんな将来を担うプロフェッショナルな薬剤師として活動する仲間なのだと感じた。同時に、私も負けていられないと強く感じた。

最後に、2日間同じグループのメンバーや先生方のおかげで忘れられない有意義な時間を過ごせたことに感謝したい。

グループ I C 志賀 菜々穂

全国学生ワークショップでは他大学の学生と未来の薬剤師像について議論することができ、とても充実した2日間を過ごすことができました。同じ薬学部生でも大学や進路が違ふと考えや視点が異なる部分も多く、大学内では感じることでできない刺激を感じることができました。未来の薬剤師像について今までは考えたことがありませんでしたが、SGDでは意見を出し合い、議論を進めていく中で、自分にはなかった考えや意見が多く出され、様々な着眼点や新たな発見をすることができました。議論の中で印象的だったのは、今回参加した学生は周りの意見を取り入れながら自分の意見を発信し、それを自分の言葉で発表につなげていたということです。学生同士でも学ぶべき点が多くあり、今後活かしていきたいと思いました。2日間という短い時間ではありましたが、このWSで得られた知識と経験を糧に20年後の薬剤師を想像し、「誰か」ではなく「自分がどうなりたいか、どう変えていきたいか」を常に考えながら、薬剤師として医療に貢献したいと思います。最後になりますが、このような素晴らしい機会を与えてくださった関係者の皆様に、そして2日間共に過ごした仲間に感謝申し上げます。

グループ I C 孫 俊吉

ワークショップを終えた率直な感想としては、参加して本当によかったの一言に尽きません。参加する前はワクワクする反面、うまく討論ができるのかについて不安な気持ちもありましたが、World Café 終了後にはすっかり緊張もなくなり、その後の討論にスムーズに入ることができました。討論では自然と意見が飛び交い、たくさんの刺激と気づきをもらいながら議論を深めることができました。懇親会もとても楽しく、1 日目が終わる頃には今日初めて出会ったとは思えないくらいみんなと仲良くなることができました。そして私が一番参加してよかったと思ったのは、たくさんの熱意のある先輩たちや先生たちのお話を聞くことができたことです。「自分たちが動かなければ制度も未来も変わらない」、「臨床に出て常にも研究心を持ち、サイエンスをしていくことが大切」、「ヒトは AI と違って、意見が衝突したときに、 $1+1=3$ 以上にできる」などなど数えきれないくらいたくさんの言葉が胸に響いたと同時に、熱意のある人はカッコいいと感じました。このワークショップで受けた刺激、得たものをずっと心にとめて、未来に向けて弛まず成長していきたいと思えます。

グループ I C 徳永 吏紀

この度、日本薬学会第 9 回全国学生ワークショップに参加させていただき、全国から集められた薬学生と交流や意見交換ができたこと、様々な場所でご活躍されている方々からお話を聞いたことはとても貴重な経験でした。

SGD では、我々が 40 歳代となり第一線で活躍しているであろう 20 年後の未来を中心に様々な議論を展開していきました。機械化が進んでいく中で AI と薬剤師はどのように関わっていくのか、それに付随して改めて薬剤師というものはどういった存在であるべきかを考えることができました。様々な意見が飛び交う中で、自分が知らなかった知識や全く考えもしなかった内容があり、自身の勉強不足を痛感しました。しかしそのような中でも、自分自身の意見を積極的に発言できた点は成長に繋がったのではないかと思います。

講演会では、制度を変えるためには現場が変わっていかなければならない、一般的な議論だけでなく、自分自身はいったい何をするのかを考えなければならぬというお言葉を頂き、とても心に響きました。最後になりましたが、このような機会を与えてくださった日本薬学会の皆様、並びに関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

グループ IC 中川 翼

“ALL 薬剤師”

これは、全国学生ワークショップに今回参加し、素敵だと感じた言葉だ。20 年後という途方もなく先の未来を描く中で、改めて薬剤師という仕事に向き合うことができた。

ワークショップでは、始めにそれぞれの描く 20 年後の未来の姿を共有し合った。そこで気付くことができたのは、人工知能や地域包括化など、誰もが想像できる未来のその先に、どうなっていたら幸せか？を描くことを忘れていたということだった。また、その理想の未来を作るためにどうしたら良いのかを考えるにあたり、薬学の汎用性の高さを改めて実感することになった。薬学生は医療者として薬局、病院から一般人にアプローチするだけでなく、製薬、政策や教育、ヘルスケアサービスなど、多種多様な進路先を選択することができる。2 日間の議論を通して至った結論は、そういった様々な角度から“健康を作る”ことが、薬学という専門性を持った自分たちの使命なのではないかということだった。今回の気づきを大切に、ALL 薬剤師の矜持を持ち、未来をより良い方向に変えていきたいと思うことができた。今回このような機会を下さった先生方には心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

グループ I C 福満 大貴

私は在学中にも自主的に勉強会などを開いて周りの学生や先生方とディスカッションを行っており、これを全国の学生と行うことで自分がより成長できるのではないかと思ひ参加しました。

World Café では、10 年後の自分については全員バラバラで薬剤師には本当にいろいろな道があることを改めて感じました。20 年後の医療について考えていくディスカッションでは、各大学の意識の高い学生が参加していることもあり、全員が積極的に発言し、今まで経験したことのない活発なディスカッションを行うことができ、非常に刺激的でした。また、さまざまな意見の中に自分では到底思いつくことのない意見があったり、自分の出した意見に付け加えてもらうことで、より良いものになったりするなど、自分にとって非常に得るものが多いディスカッションとなりました。また、大学生活で自分が一番成長したと考えられる発表能力も他大学の学生から好評をいただき、自分の発表にさらに自信を持つことができました。今回のワークショップを通して、さまざまな意見に触れることで、より成長することができたと思うので、この経験を活かしてこれからも努力していきたいです。

グループ I C 山田 茉莉乃

このワークショップを通じて、他大学の薬学生と交流し、これからの薬学に対する様々な考えを知ることができ、世界がとても広がりました。また初対面同士だからこそ、普段心の中で考えてきた薬学に対する意見や思いを恥ずかしがらずに表現することができたのではないかと思います。さらに、このワークショップの参加者は主体性の高い学生が多く、とても良い刺激を受けました。

今回のワークショップのテーマは“未来”で、医療現場への AI の導入や機械化など、新規性の高いトピックスに注目が集まり議論が白熱しました。その一方で、機械には決して真似することのできない人間の温かみや人と人とのコミュニケーションなど、目新しさはなくとも大事にすべきものもあり、機械化が進んだ未来ではその重要性が今よりも際立ってくるのではないかと強く思われました。ワークショップでの議論を通じて、薬剤師の活躍するフィールドは様々であることを学んだ上で、私は人間らしさを活かして地域の人々の健康を守っていけるような薬剤師になりたいと思いました。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださった関係者の皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

グループ I C 吉田 舞衣

同じ薬学というフィールドで、一見、「画一的」に見える薬学教育を受けてきたはずの同期と同じ時間を過ごす中で、その様々な価値観や将来へのビジョンを知ることとなり、この気づきは本ワークショップで得ることのできた大きな収穫の一つとなりました。同時に、その多様性を「かたち」や「言葉」に出来ないもどかしさや悔しさを感じたことは、非常に貴重な経験となりました。もどかしさの根源は単に知識・経験不足からくるものや、あるいは相手との関係性、「社会」そのものが起因するのかもしれませんが。また、伝えたいことが伝わらず誤解を生んでしまう悔しさは、学生間だけでなく社会の様々なフェーズで起こること、その縮図も本ワークショップを通じて垣間見ることができました。『全ての道はローマに通ず』、この言葉を社会に対し体現できるのは 6 年制を卒業した「オール薬剤師」である諸先輩方や我々、後に続く者たちであり、その中で個人として、あるいは薬剤師免許を有する者として担うべき役割を考える契機となりました。最後に、このような貴重な機会をご提供いただきました諸先生方、講師の皆様、OB・OG の皆様、全国から集結した同期の皆様にご心より御礼申し上げます。

グループⅡA 青山 春佳

私は、今回の全国学生ワークショップに参加したことにより、この先の医療や社会を創っていく役割を担うために大切なことを学べたと思います。学んだこととは、「現状を変えたければ、自分自身が行動して周りに働きかけていかなければ変わらない」ということです。

今回は医療そして社会への貢献～私たちが未来を創ろう～というテーマのもと、講演やディスカッションを行い、先輩方や学生のメンバー達から多くの刺激を受けました。普段の生活では学生同士で真面目な話をする機会は少ないが、ディスカッションでは本気で未来を考えて、意見をぶつけ合って話し合いができたことで、自分ひとりの考えでは思い浮かばないようなアイデアが多く出てきました。また、ご講演では、医療や社会に貢献するために自発的に頑張っている方の話を聞き、信念を持って物事に取り組むことの素晴らしさや自発的に周りに働きかけることの重要性を学びました。

2日間のワークショップで学んだ貴重な経験を周りの友人たちへ伝えていきたいと思っています。そしてこれからは、信念をもって行動することを私自身が体現していけるように努め、よりよい未来の医療や社会を創っていきたいと思います。

グループⅡA 小嶋 実花

ワークショップを通じて、これまでの薬学教育やこれから何を意識していく必要があるのかを考えることができ、大変貴重な経験となった。

ワークショップ参加前には、セッション中だけでなく食事や交流会などでもたくさんの方とお話をして楽しく過ごすことができるとは思ってもいなかった。普段接する機会のない他大学の方や先輩方と薬学教育やこれからの医療、進路等についての情報交換はとても楽しく、自分とは異なる物の捉え方や考え方を知ることができた。

今回のワークショップでは自分の意識の甘さを強く感じた。「制度や教育の充実を図ってほしい」という意見を主張するだけでなく、「そのために自分は何ができるのか」、「何に取り組むべきなのか」を考えることが重要であると分かった。意識の甘さを認識でき、改める貴重な機会となった。

情報交換ができたことや情報交換をできる場所が得られたことは私にとって貴重な財産となりました。ワークショップ関係者様とⅡAグループをはじめとする薬学生の皆様に心より感謝申し上げます。

グループⅡA 加藤 雅大

私が今回参加した日本薬学会第9回全国学生ワークショップで最も人生の財産となったことは、全国の薬学部を代表する人材と出会えたことです。それぞれの学生と様々な話やディスカッションを行うことで、私の視野を広めることができました。

私自身、就職活動でMR職を目指し様々なディスカッションを行ってきましたが、その場でのディスカッションはどのような戦略で新薬を患者様に使っていただくかを考えていました。少なからず企業寄りの視点で患者様を見ていたと思います。そこで今回、これから薬剤師として活躍する仲間とディスカッションすることで、私が失いかけていた医療従事者からの視点を再認識することができました。

最後に、今回手に入れることができた薬剤師や薬学会、厚生労働省などからの様々な視点を大切に、より患者様指向のMRとして活躍します。今後、お目にかかる機会があると思いますので、よろしくお願い致します。また、今後もこのような貴重な経験ができる全国学生ワークショップが続くことを願っています。今回の全国学生ワークショップ開催に際しまして、ご尽力くださいました先生方に感謝致します。

グループⅡA 加藤 優希

今回、WSに参加し全国の薬学部の6年生と交流することで、今まで大学の中だけでは気づけなかった視点や、同期の意識の高さから学ぶことが多くありました。

最初は、全国の初対面の同級生といきなり討論することに少し不安を感じていました。しかし、いざ始まると皆自分の意見をきちんと持っており、その意見を伝えることだけでなく、互いの話に耳を傾け、そして質疑応答というような討論が盛んに行われていきました。討論に参加していく中で、感じていた不安は一切消え、いつの間にか討論に夢中になっている自分がいました。同じ「薬学」を学ぶ学生でも、過ごしてきた環境によって考え方が全く違い、自分にとっては大きな刺激を受けることができました。ここで受けた刺激を大学の仲間にフィードバックするだけではなく、今後薬剤師として働いていく中でも活かしていきたいと思っています。

2日間という短い間ではありましたが、非常に有意義な時間を過ごすことができ、参加できて良かったと心から思っております。最後になりますが、このような貴重な機会を与えてくださった関係者の皆様、共に議論をした同期の方々に深く御礼申し上げます。

グループⅡA 松田 将史

今回のワークショップに参加し、未来の医療を支えていく私たちに何ができるかをそれぞれが考え、討論することで私の考えを確立させると共に、他者の考えを聞くことで新たな発見をすることができました。

ワークショップを終えて感じたのは、未来の医療が創られていくのをただ待つのではなく、私たちが自ら行動し未来の医療を創っていくことが重要であるということです。その実現のために生涯勉強を続けて知識を身に付け、また教育によって同じ志を持つ後輩を育てることができる薬剤師になりたいと思います。また、今できる事として、今回体験したことを私の中だけに留めるのではなく、同じ大学の人などの他者と共有し、同志を増やしていくことが必要であると考えています。ワークショップで未来の薬剤師の姿を考え直すことができたので、今度は私たち参加者がそのようなきっかけを与えることができればいいなと考えています。

最後にこのような貴重な機会を与えて下さった関係者の方々、そしてⅡAグループを含め2日間共に過ごした同期の仲間たちに感謝します。本当にありがとうございました。

グループⅡA 丸岡 優

全国学生ワークショップでは、充実した二日間を過ごすことができました。普段交流することのない全国各地の薬学生と会話することができ大変刺激的でした。特に、私の大学では病院薬剤師または薬局薬剤師を志望する学生が多いため、今回のワークショップの中で研究職やMRなどを志す学生と話をして自分にはなかった意見や価値観を共有することができ、自分の視野が広がったと思います。また、SGDや様々な先生方の講演を通して、今後の変化に柔軟に対応する力と自分から働きかけていこうという気持ちが大切だと感じました。今回体験したことを同級生や後輩に共有し、広めていきたいと思っています。

私は、将来地元の予防医療を活発化するような活動が出来たらと思っています。今回のSGDの中で、私の班ではコミュニティーを作り、情報の共有化をしていこうという意見が出ました。薬剤師に限らず多職種と情報を共有しやすい環境を作っていくためにも、日ごろの情報収集および専門性や技術の向上を今後も続けていき、将来に繋げていきたいです。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださいました関係者の皆様、参加者の皆様に深く御礼を申し上げます。

グループⅡA 山本 理雄

全国学生ワークショップでの二日間を通じて、今までの薬学教育について再確認し、これから自分が薬剤師としてどのように医療に貢献できるのか考えることができました。普段の大学生活だけでは、「薬学教育」や「20年後の薬剤師」などについて話し合う機会はありません。そのため、他大学の薬学部生と意見交換を行う中で、さまざまな視点や考えを共有することができたことは非常に貴重な経験であったと思います。

ワークショップに参加した学生の中には、病院や薬局で薬剤師として働く、企業で研究をする方や博士課程に進む方などさまざま、同じ薬剤師でも進路が多岐にわたっていましたが、どの学生も「患者」のために、自分たちは将来どのような医療を創造することができるのか、またそのためには何をすればいいのかを真剣に考えていました。またこのようにとても熱い気持ちを持っている同学年の薬学生がたくさんいることを知ることができました。私もこの仲間たちに負けないくらいの熱量を持ち、薬剤師として医療に貢献していきたいです。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださった多くの関係者の皆様に感謝申し上げます。

グループⅡB 石原 賢

今回、全国学生ワークショップに参加させていただき、貴重な経験をすることが出来ました。特に多様な地域の学生との討論は、様々な価値観に触れることができ、いかに自分の視野が狭く凝り固まった考え方をしているか思い知らされました。

初めて集まる薬学生同士のSGDでしたが活発な意見交換が行われ、時間が足りなくなることが多々ありました。参加した学生たちは薬学教育や研究、そして日本や世界の医療について自分の考えを持ち、社会に貢献するという意志を有していました。幅広い視野で物事を観察し多くの知識を有している同年代の学生たちとの交流は、私にとってかけがえのない経験であり、大きな刺激となりました。この気持ちを忘れることなく医療人として自己研鑽を積み社会へ貢献していきたいと強く思いました。

最後になりましたが、このような貴重な機会を用意してくださった日本薬学会関係者の皆様並びに参加された皆様に深く感謝申し上げます。

グループⅡB 大東萌絵

全国の薬学部の学生との交流は、私にとってとても刺激的なものでした。誰もが高い志を持っており、薬学界の未来は明るいのだと感じることができました。

今回、私が最も印象に残っていることは、「制度がなければできないのか？」という言葉です。今回のテーマは「未来」で、結局、未来の医療を予測するのは難しいということでした。私たちは、これから予測できない環境で働いていくことになります。制度ができるのを待っていれば、その時に必要とされている仕事ができないのだと分かりました。これからの薬剤師には自主性がないと、良い医療を患者さんに届けることができないと、当然のことではありますが改めて実感しました。自分で考えて新しいことをしていくのはとても難しいことですが、ここで出会った人たちと協力してこれから頑張っていきたいと強く思いました。

最後になりましたが、このような素晴らしく貴重な機会を下くださった日本薬学会の皆様、大学関係者の皆様、また、たくさんのことを教えてくれた各大学の学生の皆様に感謝申し上げます。

グループⅡB 佐藤 優

私はこれまで、他大学の薬学生と交流することはほとんどありませんでした。SGDも何度か経験してきましたが、全国の薬学生と話をすることがこんなにも新鮮だと感じるとは思いませんでした。同じ薬学教育を受けて来ているはずなのに教育の受け方にも差があるように感じました。他の学生の意見を聞くことで自分が持っていない視点や知識を得ることもでき、とても有意義に感じることができました。

今回のワークショップのテーマである20年後の世界ということはこの2日間強く考えました。来年のこと、5年後のことを考えることは往々にしてありますが、20年という長い時間について考えたことはいままでなく、想像に難く、議論も難航したと感じました。私たちが何をすべきか、というテーマに落とし込むためには突飛すぎる意見では地続きにならず、現在からの地続きで考えるのでは20年後の話にならないというジレンマの中でチームとしてなんとか着地点を探っていくような形になりました。その中で協力レディスカッションを行っていくことができ、とても良い機会になったと思います。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださった関係各位の皆様方に深く御礼を申し上げます。

グループⅡB 竹田 梨央

全国の薬学生と意見交換をすることで、自分達が将来の医療を作るという自覚を持つことができました。薬剤師の役割について全員の考えが一致していても、具体的に自分達ができることを考えることは難しく、意見がすれ違っても議論することで視野を広げることができました。学生中に勉学に励むと共に、薬学以外の知識をつけ、人脈を増やすことが大切であると感じたため、低学年のうちから大学内でも薬剤師の将来について考える機会が欲しいと思いました。国家試験は通過点でしかなく、薬剤師免許を取った後に様々な進路で社会へ貢献する機会があると感じ、薬剤師として働くことが一層楽しみになりました。予測できない未来のことを考えていても既存の考えに囚われしまい、頭が固くなっていると感じました。研究は限られた人だけではなく、疑問に感じたことを解決するためにどの進路に行ってもみんなが行うべきことだと分かりました。医療技術や環境は日々変わっており、先生方や政府の方が薬学教育に対して考えてくださっていると分かり、できる限り知識を吸収し、患者様や未来の薬学生に還元したいと思いました。この度は貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

グループⅡB 中村 昂洋

まず、今回のワークショップに参加して最も良かったと思えたことは、やはり全国の薬学生の様々な考えを知ることができたことだった。他人の意見を聴くことで自分の持っていない知識や価値観に触れ、自己の考えを客観視するというのは、己を大きく成長させてくれるということを実感できた。また、2日間でワークショップのOBを含む多数の講演を拝聴できたことも非常に貴重な経験となった。我々を鼓舞してくださる言葉や、時には厳しい言葉もかけられたが、並々ならぬ熱意を持って仕事に取り組んでおり、医療の未来を担う私たちに対して大いに期待をしてくれているということに関しては、講師の方々全員が一貫しており、未来を変えるためには一人一人が確固たる意志を持って行動することが重要であるということに改めて感じる事ができた。

本来、薬学生の間でこういった話し合いをもっと盛んに行わなければならないと思うのだが、何かきっかけがないとやりにくいというのも現状で、最後に今回こういった機会を提供してくださった、タスクフォースを含む協力者の方々に対して深く感謝の意を示したい。

グループⅡB 山本 隆弘

他大学の学生と共に医療の未来を考える。通常の大学生活では体験できない、大変貴重な時間を過ごさせていただいたと考えています。目指す場所が研究者・病院薬剤師・薬局薬剤師・MRなど、活躍の場所が違ってもALL薬剤師として社会にどのように貢献して行くべきかを考えた2日間でした。グループディスカッションでは時間が足りないくらい活発に意見を交換し、メンバーひとりひとりの知恵を総動員してまとめた発表資料作成も思い出のひとつとなりました。普段経験できない厚生労働省・文部科学省・PMDAの方がたからの講演も自分にとって大切な財産となりました。研究をすることの重要性もこのワークショップで実感したことの一つです。試験管を振るだけが研究ではなく、テーマを自分で探し追求して行くことが必要であると学びました。

交流会・advance交流会では足りず、more advance交流会でも医療の未来を語り合ったことは一番の思い出です。このような機会を与えてくださった委員会の先生方と2日間共に過ごした薬学生の皆様に心より感謝致します。

グループⅡB 別府 祐季

このワークショップで、普段はあまり意識しない未来について考えた。時代を先読みする力を養っていかないと、20年後に生き残っていくのは厳しいと感じた。20年前と比較して、薬剤師は表に出てきており、チーム医療の一員としての役割を期待されている。これからの薬剤師に求められているのは、研究能力だ。研究とは疑問を持ち、自ら検証することであって、働きながらでもできるという言葉が心に残った。薬剤師になった後も、批判的な視点を忘れないようにする。「必要性を認めてもらえれば新たな役割を与えられる」という言葉にも感銘を受けた。自分から動くことで行えることが増えるので、役割を与えられるのを待つのではなく、何が必要なのか、何が求められているのか、自分に何ができるのかを考える。これからの未来で変わっていくものが多いが、変わらないものもある。患者一人一人に物語があり、平均値や標準偏差で表せないことだ。医療はますます発達していくが、「最良の医療が最善の医療ではない」ことを忘れないようにして、患者にとって意味のある貢献をしたい。

グループⅡB 小田切 州広

今回、WSに参加させていただき、6年間受けてきた薬学教育を振り返るとともに、それを生かしてどう働いていくかを考える良い機会となりました。

他大学の薬学生と話す機会は今まで非常に少なく、それぞれの大学での薬学教育の状況を知る事ができました。また、そういった違った背景を持ち、違ったフィールドで働いていく学生とディスカッションを重ね、これからの医療がどう変わっていき、薬剤師は何ができるのかを改めて考えることができました。この経験を活かし、自身も薬剤師として頑張らなければと思います。

また、全国から学生が集まっていることで、様々な地域・業界に進む仲間を作ることができました。わずか1泊2日でしたが、同じ薬剤師として社会に出ていく学生が集まり、将来を議論したことで貴重な仲間を作ることができたのだと思います。今回出会えた仲間を大切に、薬剤師として活躍できるよう努めていきます。

最後に、このような機会を作っていただいた関係者の皆様、先生方、そして共に議論を交わした同期の皆さんに心より感謝いたします。

グループⅡC 岡本 賢一

本 WS を通じて最も印象的であったのは、全 SGD で皆が熱意をもって討論していたことだ。

SGD が始まるまでの皆の表情は硬く、これから始まる 2 日間への緊張と胸の高鳴りが入り混じったようだったが、医療の未来についての SGD が始まると、皆の表情は一変した。真剣な眼差しで各テーマについて話し合う姿を見て、皆から「医療の未来を考え、より良くしたい」という熱意が伝わってきた。私も意見を発言したが、SGD の最中には幾度となく全国の薬学生の多様性を感じる場面があり、自身の視野の狭さを痛感したとともに、「全国レベルに追いつき追い越し、未来を創っていきたい」と改めて実感することができた。また、6 年制の先輩方からの現場の実情についてのお話しや、薬剤師の道を切り開いてきた先生方からの叱咤激励は、自身の医療に対する意識を再考するきっかけとなった。

WS を通じて、今後の医療への意識がより一層強くなったとともに、SGD に関係なく熱意をもって語り合える仲間ができたことは、私にとって非常に有意義であったと思う。本 WS に参加させていただけたことに心より感謝し、医療の未来を切り開いていける薬剤師を目指して、これからも精進していきたい。

グループⅡC 南田 有希

今回参加したワークショップでは、10 年後、20 年後の医療や私達自身について考え、意見を交換する機会をたくさんいただきました。議論の中で自分には無かった意見をたくさん聞くことができ、楽しかったです。他グループの意見がなかなか聞けなかったのが心残りなので、代わりに報告書を読むことにしようと思います。

5 年ほど前、入学当初にこのようなワークショップに参加していたら、今回ほど有意義なものとなったか考えると、私は少し自信がありません。おそらく、他の参加者もそう思うのではないのでしょうか。大学に入学してからの 5 年と少しの間に、授業や実習、研究室やアルバイト等で様々な経験をしました。専門的な知識や技能が身についたのは勿論ですが、それ以外にも身についたものがたくさんあります。これらの経験が今回の活発な議論に繋がったのだと感じました。今回のワークショップでの経験もまた、今は想像出来ませんが、10 年後、20 年後に生きてくるのだらうなと思いました。

グループⅡC 北村 大来

「君たちの議論している 20 年後の医療は 5 年前から言われていることだよ」とワークショップの 1 日目、言われた言葉が印象的でした。

振り返ってみると確かに私たちの議論していたことは、テレビやネットニュース、有名な方がお話しになっているようなものの二番煎じであると気づかされました。

未来の医療・社会に対して私たちの議論は、どこか他人事のような議論で、まるで誰かが未来を創ってくれることを信じているようでした。また、その言葉は未来を創るのは自分たちであると、私たちの背中を押してくれているように感じました。2 日目、私たちの班では議論を重ね、患者さんに寄り添った臨床的な問題を解決するために、すべての薬剤師が研究できる環境を実現させることを目標に掲げました。これは誰かに言われたものではなく自分たちで創った一つの任務です。ワークショップを通じて、あらためて未来に対する責任をもつことができるようになったと感じました。

最後になりましたが、ワークショップ開催にあたりご尽力くださった関係者の皆様、そして共に議論を重ねあった学生の皆様に心より感謝申し上げます。

グループⅡC 木山 美佳

第9回全国学生ワークショップへの参加は、素晴らしい経験となった。全国から集結した薬学生が2日間にわたり、未来の医療、薬学のこれから、20年後の薬剤師像など、未来を大きなテーマに意見を交わしあった。私が驚いたことは、学生皆が自分の考えや熱意を恥ずことなく発言していたことだ。これまでも大学でSGDを行ってきたが、私は自分の意見を積極的に発言できずにいた。しかし今回の活動では、誰の発言に対しても皆が耳を傾け、疑問に感じた点は質問し知識を補足しあうといった発言しやすい雰囲気の後押しされ、私自身も積極的に発言し議論に参加できたように感じる。同じ熱量を持った者同士が一体となり議論を進めていく時間は、こんなにも楽しく有意義なものなのかと感じた。

そして今回の活動を通じて、「私の未来を創るのは私」、この言葉が強く心に刻まれた。自分自身がこれからの医療、薬学の未来を創る当事者であるという自覚をもてたこと、また志高い全国の仲間と交流できた、という点でも今回のワークショップへの参加は素晴らしい経験となったと思う。心に刻んだ言葉、今回の出会いを薬剤師となった後も大切にしていきたい。

グループⅡC 居石 里子

今回、日本薬学会全国学生ワークショップに参加、多くの貴重な体験をさせていただきました。私は学外では医学生らと学ぶ機会が多く、チーム医療について考える機会がありますが、薬学生や薬剤師等の方々に囲まれて薬剤師の未来についてこれほどに真剣に考えたことはありませんでした。全国の意識の高い方々が見ているものに触れることで自分の現状や、考えたことのない負の未来にも思考を至らせることができ良かったと思います。中でも、臨床における研究の必要性、医療経済への関心の深さは自分には足りない分野であったと思います。

また、キーワードとして「やる気」、「熱意」を多く聞きました。自分自身、それらが中途半端だと感じることは多々あります。しかし議論の中で次々に出てくる問題点を解決するためにはそれらが不可欠で、そしてこのような議論をできる自分たちが立ち上がらなければならないのだと感じました。

最後に、全国の薬学生、卒業生、関係者各位の皆様、この度はこのような貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。

グループⅡC 萩原 諒也

第9回のWSでは、全国の薬学生と医療、薬学の未来について熱く語り合うことができると知り、大変ワクワクした心境で当日を迎えました。多種多様な背景をもつ人から出る意見やアイデアは非常に斬新なものであり、刺激的なディスカッションとなりました。また、社会で活躍している様々な立場の方の熱い講演では、研究者精神、生涯学習、未来を切り拓くのは自分、などといった薬剤師が持つべきマインドの重要性を肌で感じることができました。

2日間を終えて感じたことは、自分自身の知識が乏しく、まだまだ視野が狭いということです。情報のアンテナをより広く持ち、自己研鑽の姿勢を持って、これまで以上に積極的に学び、そして情報を発信・共有していきたいと思います。また、熱く語り合うことのできる全国の仲間との出会いを今回の機会が終わらせず、次に繋げていきたいと思います。

今回は、様々な方の支えにより、このような機会をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

グループⅡC 芳賀 瑞季

私がワークショップに参加し薬学部の同級生一人一人が自分の将来は勿論、薬学と医療への問題点や将来への要望を明確に持ち、実現するために行動しているという印象を持ちました。私自身は将来薬局薬剤師として処方箋を持たない健康な方でも気軽に来局し、健康相談をして頂ける薬剤師になりたいと考えていました。しかし今回ワークショップで同級生との討論や先生方の講話を通して、私の目標とする薬剤師像に近づくためには具体的にどのように行動するかの考察が足りていないということに気が付きました。討論中に薬剤師の存在や役割を地域住民の方々にさらに知って頂くために学校薬剤師の積極的利用や健康サポート薬局での運動スペース設置と指導など私の目標に通ずる具体案を発見する事が出来ました。私は今後、目標とする薬剤師像を達成する事は勿論、一人一人の患者様や地域の方々が健康な生活を営むためにはプロフェッショナルな薬剤師が求められると考えました。

グループⅢA 東 里沙

日本薬学会第9回全国学生ワークショップを通して、薬剤師の未来や今後の課題について様々な議論を行うことで、多くのことを考え、学び、有意義な時間を過ごすことができました。

ワークショップでは20年後の薬剤師をテーマとして、未来の医療現場や薬剤師に求められる能力について議論を行いました。今まで想像したことのないような20年後の未来について具体的に考え、求められるスキルや制度について議論を行うことで、自身の将来の薬剤師像をより深く、具体的に考えるきっかけになったと感じています。班での議論では、時間が足りなくなるほど皆が活発に意見を出し合い、とても刺激的で実りのある議論が出来ました。全国の薬学生と議論を行うことで、大学内の勉強のみでは得ることのできない考え方や意見を聞き、知見を広めることが出来たと感じています。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えて下さった日本薬学会の関係者の皆様、タスクフォースの先生方・先輩方に心より御礼申し上げます。

グループⅢA 猪又 啓徳

今回参加した全国薬学生ワークショップでは全国にいる意識の高い同志達に会うことができ、貴重な経験しかない2日間を過ごすことができた。皆、頭がいいとか意識が高いとか知識を多く持っているとかいったような表面的なレベルの高さだけではなく、人間レベルの高い素敵な人達であった。この印象記ではそこで出会えた素敵な同志達について記す。

2日間の中でworld caféやスモールグループディスカッション、発表会、質疑応答やそれに伴った議論や討議、朝昼晩の会食兼情報交換会など多種多様な形でⅢグループのみならずと交流した。みんな頭が良く意識も高く各大学の代表として素晴らしい人達であったが、それだけではなく優しく、元気で、面白く、大人な人間でもあったとも思う。議論や討議では知識をひけらかす、自分の意識が高く他より優れていると思われたい、といったような器の小さな目的などではなく、只々その時の議論を盛り上げるために、そして皆で有意義な時間を過ごしたいがために、自らの知識をフル活用し意見と意見を全力でぶつけ合うといった皆の姿が特に印象的だった。また意見をぶつけ合い戦った後には共に食事をしながら笑い話などをして互いをリスペクトしあうといった素敵な場面も多かった。自分の大学内だけではこれほど素晴らしい人達はめったに居ない。それが今回、たった2日間ではあったがこれほど素晴らしい人達が集う事の出来るイベントに参加できて本当に幸せな経験をする事ができた。

グループⅢA 篠原 佳那子

今回のワークショップに参加させていただき、これまで自分が大学で学んできたことを振り返るとともに、これから薬剤師として何をしていくかを深く考えることができました。また、全国から集まった薬学生がどんな思いを持っているのかを知り、私ももっと広い視野で薬剤師の役割を考えなければならないと感じました。

小グループでのディスカッションやチームでの発表を繰り返す中で、今の状況をただ受け入れるのではなく、自分の意見を持ち行動することが大切だと気づきました。私は、AIや機械化などテクノロジーの進展の中で、人間である薬剤師として何ができるか、何をすべきか常に考えていきたいと思いました。

ワークショップに参加しなければ出会うことのできなかった薬学生の同期と出会えたこともかけがえのない経験になり、あっという間の2日間でした。最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださった日本薬学会関係者の皆様、講師やタスクフォースの先生方、卒業生の先輩方、参加者の皆様に御礼申し上げます。

グループⅢA 高橋 里奈

今回ワークショップに参加させていただき、とても新鮮で充実した二日間を過ごすことができました。今まで他大学の方と話す機会はほとんどなく、ディスカッションは大学内でしか経験したことがなかったので、初めて出会った全国各地の薬学生が持つ様々な意見や考え方を知り刺激を受けたのと同時に、自分の視野の狭さを痛感しました。話し合っている時の、グループの皆さんの生き生きとした様子がとても印象的で、熱意のある方々と意見を交わすことができ嬉しかったのを覚えています。また、ディスカッションだけでなく、普段は聞くことのできない貴重なお話も聞くことができ、自分なりに薬剤師としての考えが深まりとてもいい経験をさせていただきました。

ワークショップを通して得た出会いと経験を忘れず、自分たちで未来を創っていくという自覚をしっかりと持ち続けてこれからも自己研鑽に努めていきたいと思います。最後になりましたが、このような貴重な機会を設けてくださった日本薬学会ならびに関係者の方々、そして二日間共に議論を交わした同期生に心より感謝いたします。

グループⅢA 岩澤 佑典

本WSを終えて、薬学教育を学生目線で評価し考えることは非常に難しかったです。医療の現場では、分からないこと答えがないことに遭遇する機会が多く、ひとりひとりの知識・経験を常にアップデートしていく必要があります。議論の中では薬剤師の地位の向上とありましたが、臨床での疑問を基礎へもちかえり自ら解決するぐらいの気持ちをもってさえいれば薬剤師の地位は自ずと上がっていくと思います。実習を控える学生がいるならば、指導薬剤師の言ったことが全てではなく、自分なりの正解を導き出せばいいのではないかと伝えたいです。未来の医療を考えるというテーマで議論があり、日々進化する医療において、現状ある医療や技術をどれだけ知っているのか、やはり、最新の医療を知るところからスタートしなければいけないのではないかと感じました。医学・医療を取り巻く環境についてもっと多面的な議論する必要がある、薬剤師が活躍できる場はもっとあると感じました。

全国の薬学生と交流する場は中々ないので、本WSに参加することができて刺激のある2日間でした。このような機会を与えて下さった先生方、OB・OGの皆様には感謝申し上げます。

グループⅢA 渡邊 颯

今回の全国学生WSにて、全国の薬学生とふれ合い、6年間の学生生活や未来づくりについて考え、意見を共有できる貴重な機会に参加させて頂き、これから社会人として成長していく上で良い経験となりました。本当にありがとうございました。私はWSを通して、近未来の社会でAIが普及する中、薬剤師がどのような未来を創造していくべきかについて考える良い機会となりました。私は、AIにはできないこととして、患者さんの気持ちに添えられる服薬指導の重点や薬剤師が臨床研究することによって新たな知識や治療法を開発・発見に貢献していくことが重要だと感じました。これらのニーズを実現させるためにもさらに薬剤師が臨床や研究に力を入れていくことや医工連携があるように他学部との連携を成すこと、薬剤師の研究力を養うために必要な大学院進学などを積極的に行っていくのが良いとチームで意見を共有しました。また、AIの普及とともに薬剤師の職務も多様化され、専門性が求められる為、薬剤師のカリキュラムに専門性を深める学習や研修をより多く取り入れることも重要なことを共有しました。

グループⅢA 田代 愛

未来の医療について考えようというテーマをもとに、様々なセッションに取り組みとでも充実した2日間を過ごした。様々な大学の薬学生と話す中で、それぞれが自分の考えをしっかりとっており、視野が広いと感じた。また、プレゼンの方法や説得力のある話し方など学ぶところが多く、自分に必要なことに気づくととても良い機会となった。

2日間を通して、強く印象に残ったことはPMDAの紀平さんのお話の中の「自分が二十年后にどうなっていたいか、医療の未来をつくるには主語を自分にして考えること。他人任せでは何も変わらない。」という言葉だ。この言葉から二十年后の薬剤師が社会の中で必要とされるかどうかは今後の薬剤師1人1人の働き次第であるという事を感じた。今後はAIが医療現場でさらに応用されていくことが予想され、考えながら行動していかなければ社会の流れに淘汰され不要な人材だとなってしまうことが容易に予測される。この機会を生かし、患者のためにできることは何か、AIに使われるのではなく、AIをうまく活用し国民の健康に貢献できる薬剤師となれるよう視野を広く持ち、常に学び、考えることに時間を惜しまず続けていきたいと思う。

グループⅢA 丹下 優菜

今回のWS参加前には、自分が一薬学生として議論についていけるのか、不安でいっぱいでしたが、先生方のお力添えいただいたおかげで、今まで出会うことがなかった全国様々な大学の薬学生の方々と議論が出来たこと、共に未来について深く考えられたことを大変嬉しく感じています。どの学生の方も志が高く、議論に対して熱く真剣であること、またバックグラウンドや将来の展望が異なると、視点や意見が大きく異なることに驚き感動しました。自分が薬学部で獲得してきた技能・価値観の良さを感じ、また自分の視野の狭さも痛感した為、WS後の現在では今後の働き方・人生を見つめ直しています。

議論に関しては「20年後を創造して、自分たちがそれを創造する」という点が非常に難しく、議論が白熱しました。前述したとおりバックグラウンドや将来の展望が異なる学生それぞれが想像する未来、また日本薬学会の先生方や厚生労働省の方が想像する未来は多種多様で、意見をまとめるのに苦労しました。先のことを見据えて思考するには的確な現状把握と柔軟な思考が欠かせないと強く感じました。

最後になりますが、このような貴重で素晴らしい機会を与えてくださった関係者各位、並びに2日間共に過ごした各大学薬学部の方々に深く感謝申し上げます。

グループⅢB 赤井 康司

私は他の大学の人たちと交流する機会がなかったため、初めは不安でしたが、他大学の参加者やタスクフォースの先生方は気さくな人ばかりで気兼ねなくディスカッションすることができました。また、日頃は聞けない他大学の参加者の意見は私と共通のものや私が見落としていた視点からのものなど多種多様でそのような意見を聞いたことはとても刺激的な経験でした。私が一番印象に残っていることは初日の終わりに PMDA の紀平先生のお話で「皆さんのディスカッションは本当に 20 年後についてですか？」という言葉でした。初日に 20 年後の医療を想像してみようのセッションがありました。そして私のグループはよくディスカッション出来たと思っていましたが、その言葉を聞き振り返ってみると数年未来のディスカッションになっていました。議論をしているうちに目先の話になってしまいました。しかし、医療は 20 年の間に飛躍するため、その時薬剤師がどのように医療に携われるか想像する力が大切であることに気付かしていただきました。

最後に、このような機会を与えてくださった日本薬学会、タスクフォースの皆様、全国の薬学生にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

グループⅢB 伊元 李早

各大学 1 名ずつの参加という、少し不安を抱えた状態で始まったワークショップでしたが、2 日間を通して大勢の仲間がいるという印象を持ち、楽しくワークショップを終えることが出来ました。

本ワークショップに参加し、他大学の学生との SGD や意見交換を通じて、多くの気付きを得ることが出来ました。2 日間を通じた議題であった『20 年後の医療・薬剤師』に関しては、想像していたよりも議論が難しく、頭を悩ませることが多くありましたが、そのおかげで班のメンバーとより濃い意見の交換が出来、内容の深いディスカッションになったのではないかと感じています。特に 2 日目の第三部『医療・社会への貢献』に関しては、将来私たちがどんな医療・社会を創っていくのか、どうやってその未来を創るのかを話し合うことで、半年後から社会に出る私たちがどのように社会に携わり、医療を担っていくのかを考えるととても機会になりました。この議論の中で私自身の将来像が少し明確になったことは、私にとって大きな収穫となりました。

最後に、このような実りある素敵な会を開催していただきました日本薬学会の皆さま、当日たくさんの学びを頂きました先生方に感謝申し上げます。

グループⅢB 山根 万奈

第 9 回全国学生ワークショップでは、全国の薬学生と出会い意見を交わすことができ、とても有意義な 2 日間となりました。私の大学では、ほとんどの学生が薬局や病院に就職しますが、ワークショップでは、大学院への進学や研究開発職に就職する学生もおり、こうした方々と話をする中で、大学内では得られない価値観や視点に触れることができ、良い刺激を受けました。

SGD では「未来の医療」についてお互いに意見を交わすことで、今まで考えたことのない視点と共有することができ、薬学生としてだけでなく、これから医療を担っていく人として必要な視点・考えに気づくことができました。

さらにワークショップでは、実際に薬局や病院で働いている先輩方のお話や、文部科学省、厚生労働省、PMDA の先生方のお話も伺うことができ、貴重な経験ができました。特に印象に残っているのは、「これからの薬剤師には、臨床（実践力）および教育（指導力）に

加えて、研究（探求力）が求められる」というお話です。「薬剤師は薬学の知識をもつ科学者であり、現場で課題を見つけ解決する研究能力を有する必要がある」という言葉が印象的でした。この話を聴いて、日々の業務を淡々とこなすのではなく、課題を見つけて業務に関するエビデンス作りに関与できる薬剤師になりたいと思いました。

グループⅢB 伴野 友香

本ワークショップに参加し全国の志の高い学生との交流を通して、私自身の実力不足を痛感するとともに、今後の薬剤師について学び考えることができた。学部が同じでもカリキュラムに大きな差があり、教育内容や地域差によって価値観が全く異なっていることも、活発な討論に関連しているのではないかと感じた。私の理解が及ばず、グループの方に迷惑をかけたしてしまったことが心残りではありますが、自分では考えつかないような視点からの意見を聞くことができ有意義な時間を過ごすことができた。また先生方の講演から、薬剤師の活躍する場は自らの考えや行動次第では、無限大であると気づくことができた。働く環境が異なっても、薬剤師として社会に貢献することが使命であることが社会から求められる薬剤師であり、ALL 薬剤師として、プロフェッショナリズムを意識することの重要性を学ぶことができた。

抽文で大変恐縮ですが、ワークショップの運営関係者様、討論中にご指導下さいましたタスクフォースの先生方、また参加された他大学の学生の皆様に感謝致します。

グループⅢB 藤丸 知佳

今まで大学6年間、ずっと同じ大学の人たちとしか接したことがなかったため、今回このような全国の薬学部生と話し合える機会をもらえて、本当に新鮮で有意義な時間を過ごせた。国家試験の勉強ばかりに意識がいつの間にか落ちてしまっていたが、実際に自分が薬剤師としてどのように社会に貢献できるか、何ができるのかを考え、これからの社会を創っていくのは自分たちなんだという実感が持てた。また、PMDA や厚生労働省、文部科学省など行政に携わる方たちから貴重な話を聴くことができてよかった。この2日間で得たこと、学んだことを大学に持ち帰って、周りのみんなにぜひ伝えたいと思う。半年後には薬局に就職するが、薬局薬剤師は特に大きな変化を求められていると強く感じた。強い熱意を持ち続け、行動できる薬剤師、未来を創ることのできる薬剤師になりたいと思った。そして、今日出会った仲間たちと今後も切磋琢磨しつつ協力しあって、日本の医療の発展に貢献していきたい。

グループⅢB 本田 彩加

全国学生ワークショップを通して、様々な意見や価値観を共有し、自分自身の視野を広げることができ、とても有意義な2日間を過ごすことができました。

同じ薬学生ではありますが、進路先や大学が異なる学生とのSGDでは、新たな発見や様々な着眼点を交換することができました。そしてこれまでにない白熱したSGD・発表は、とても刺激的な経験となり、今後ALL薬剤師として働いていく中でも、このような機会を設け、それぞれの薬剤師としての視野を広げていきたいと感じました。

今回のワークショップで考えた「未来」を、自分たちの手で、自分の手で創り上げていくことが重要であると学びました。この学びや経験を生かし、私たち自身が行動しないと求める未来や制度は変わらないということを発信していき、様々な現場の薬剤師と共に行動していきたいと思えます。

最後になりましたが、ワークショップ開催にご尽力頂いた関係者の皆様、ならびに2日間共に過ごした各大学の皆様に深く御礼申し上げます。

グループⅢB 佐々木 貴寛

まず初めに、このような会を開催して頂いた日本薬学会の担当者様、並びにご講演頂いた文部科学省、講師、学生ワークショップOBの方々、タスクフォース担当者の皆様に深く感謝致します。私は、この会を通して次の2点に関して特に意義深く感じました。それは①将来に希望をもつ意識の高い仲間との出会い、②教育、臨床、そして基礎における研究の一貫した重要性を知れたことです。①について、まず各大学より選出された代表者の人間力及び思考力の深みと多様さに驚きました。議論を進める中で、自分の持たない視点あるいはさらに熟考された意見を拝聴し、新たな気づきを度々得ることができました。また、グループワーク以外においても、各々の価値観や将来像について話し合うことができました。②について、まず行政の安川さん及び福島さんのご講演より、国自体が研究を通して得られる問題解決能力を主軸として、臨床、基礎、あるいは教育、いずれの場合においても通用する薬剤師を育成する方針であることを理解できました。また学生ワークショップOBの方々のご講演より、研究により得られる問題解決能力が実際の現場において必須であると感じました。全体を通して、研究自体あるいは研究を通して養われる能力の重要性を再確認できたと感じています。以上2点に関して得た知見は特に心に留め、今後の人生における一つの指針にしたいと思います。

グループⅢC 石合 崇人

日本薬学会第9回全国学生ワークショップでの2日間を終えて、全国の薬学部の学生や先生方と様々な意見交換ができ、とても貴重な時間を過ごすことができたと思います。この意見交換のおかげで自分が今までに持っていなかった考え方も学ぶことができ、自分の世界観を変えることができた実感しております。

2日間で多くの討議を行いました。最も印象に残っているのは最終日に行われた総合討論です。我々の班では未来の薬剤師の姿を考えた際に薬学教育の制度変革を求めるという意見が多く出ました。しかし総合討論では制度を変えるのを望むのではなく、まずは自分たちが制度を変えようと活躍することだと諭されました。確かにその通りだと思い、今後の参考にしていこうと思いました。このような点からも自分になかった考え方を外部から取り入れることができたのでとても勉強になりました。

同じ薬学部の学生同士ということで心置きなくSGDができたと思います。今後はこの2日間の経験を忘れずに、薬剤師や医療の明るい未来を創っていけるように努力していこうと思います。貴重な機会を与えていただき、誠にありがとうございました。

グループⅢC 新地 瑠海

全国学生WSに参加できた2日間は、短い時間であったが自分の学生生活において非常に貴重な経験をする機会になった。今回は、未来の医療・社会を自分達がどのように創造し、貢献できるかというテーマについて討議を行ったことで、今まで深く考えてこなかった未来に対する意識を向ける契機となった。SDGで未来の医療を想像したが、医療は予測不可能な発展を遂げてきたので、その様な時代において自分が薬剤師として教育・臨床・研究に対してどのように貢献できるのかを考えて行動する必要があると感じた。そして、薬剤師という職能の有用性を示すためにも常に熱意を持って取り組み、自己研鑽し続けなければならないと思った。

WSでは、普段交流することのできない他大学の薬学生と話し、各々の考えを共有したことで、自分の考えや視野の狭さに気づかされた。そして、自分はまだまだ消極的であると感じた。これからはより積極性が問われると思うので、今後はもっと積極的に挑戦していきたいと感じた。

最後に、班のメンバー、そしてタスクフォースの先生方、WSの関係者の皆様にこのような機会を頂けたこと深く御礼を申し上げます。

グループⅢC 坂倉 未映

今回のワークショップではとても多くのことを学ばせて頂きました。講演やフリートークでは先輩方からの熱いメッセージや、薬学に関わってくださっている各機関の方からの厳しいながらも多くの期待が詰め込まれた貴重なお話を伺うことができました。各SGDでは同年代の学生から多様な意見を聞くことができ、様々な刺激を受けました。進路が決まり自分の将来について深く考えたこの時期だからこそ得られた意見も多くあったと思います。各々が大きく異なるバックグラウンドを持ち、各大学で様々な教育を受け醸成してきた医療や薬剤師への思いを話し合うことは非常に貴重な経験となりました。ここで得られた多くの知識・経験・思いを忘れることなく、今後活かせるよう精進して参りたいと思います。

最後になりましたが、本ワークショップにご尽力下さいました先生方に厚く御礼申し上げます。また、ともに良き時間を過ごしました先生方・学生の皆様の益々のご活躍とご健康を心よりお祈り申し上げます。

グループⅢC 須佐 紳之介

私は、第9回全国学生ワークショップを通して「20年後に薬剤師として生きていくために自分が何をすべきか」を真剣に考えるようになりました。ワークショップ一日目のセッションⅡで、「コミュニケーションと臨床研究が密接につながっていること」「薬剤師として時代の変遷に立ち向かう上で、新しいエビデンスをクリエイトしていくことが自分に求められていること」に気付くことができました。また、数々の講演を通して、卒業までの約半年が、一人前の薬剤師として活躍するための「土台」を作る時期だということを知りました。

私は、卒業後に薬局薬剤師として北海道の医療の発展に貢献したいと考えています。このワークショップのSGDや合同討論で、他大学の仲間や先生から得た発見や考え方、視点を、残りの学生生活、そして薬剤師人生に活かし、北海道の地で薬局薬剤師の活躍の場を広げていけるよう精進していきたいです。

最後になりますが、今回のワークショップを企画して下さいました関係者の皆様、そして私を大学代表として選んで下さった北海道科学大学薬学部の教員の皆様に感謝申し上げます。二日間、本当にお世話になりました。

グループⅢC 田中 絵理

この度は日本薬学会第9回全国ワークショップに参加させて頂き、誠にありがとうございました。このようなワークショップに参加した経験がなかったため、不安に思うこともありましたが、有意義な2日間を過ごせたことを心より感謝しております。

私は今回のワークショップの話を教授から頂いた時、是非とも参加してみたいと思いました。私は成績がずば抜けて優秀な学生でもなく、特に秀でているものもありませんが、こんな私でも薬剤師の未来について討議することはできました。学力に関係なく、意欲的でコミュニケーションさえとることができれば、誰もがワークショップで討議できる権利を持っていると私は思います。ワークショップへ意欲的に参加する学生がもっと増えるこ

とで、より良い薬剤師の未来を築きあげることができるのではないのでしょうか？そんなことをワークショップの最終日に感じていました。

薬剤師の明るい未来に向けて、是非、今後もこのようなワークショップを続けて欲しいと思います。

グループⅢC 松谷 真次

まず始めに全国各地から薬学生が集まると聞いたときは、自分がその場に行っても大丈夫かなと不安になりました。実際にWS初日の午前中とかは緊張していました。しかし、グループのメンバーと会話をしたり、先生方が面白おかしく進行してくださったりと、すぐにその場に馴染めたような気がします。

そして、今回のWSの本題でもある「20年後の医療について」の議題でディスカッションした際にはいくら時間があっても討議が尽きないような内容だったと思います。しかも参加者ひとりひとりが発言して、自分の思いを伝え、このような熱いディスカッションが出来たことはいい刺激にもなりましたし、自分の財産にもなったと思います。自分で今後こうしていきたいと考えたことは今後実践できるように頑張っていこうと思います。またディスカッション外の時間では皆と交流を深めたりすることで、友達もたくさんできました。このつながりは今後の人生でもかけがえのないものになる気がします。

最後に今回のWSに参加して本当によかったです。そして、いつの日かまた今回のメンバーで語り合いたいです。

グループⅢC 高須 美玖

「医療そして社会への貢献～私たちが未来を創ろう～」というテーマ始まった今回のワークショップにおいてディスカッションでは私たちの歩み；過去・現在・未来について考えいく中で薬学・医療という世界は今後どうなっていくのか分からないからこそ、逆に私たちが新しい未来を創っていくことができる。そのために今自分たちがすべきことは何なのかという過去→現在→未来→現在という時系列で多くの仲間と意見を共有することができました。

ディスカッションのみならず、同学年の全国の薬学部生と今回のワークショップを通して知り合うことができたということは、他大学の学生がどのような考え方・視点を持っているかなど話を聞くことができ、とても刺激を受けることができました。WSで得られた考え・仲間との出会い・つながりは自分にとってのとても大きな財産となりました。

最後になりましたが、自分にとってとても貴重な機会となったこのワークショップに参加させていただく機会を与えてくださいました日本薬学会の関係者の皆様、タスクフォースの先生方、先輩方、そして同期の皆様に御礼申し上げます。

卒業生印象記

第2回参加経験者 円入 智子

今回、薬剤師の未来について学生が討論しているところを見学しながら、私自身も「未来の社会から求められる薬剤師像」と「薬剤師としての未来の自分」について考える時間を持つことが出来ました。学生の頃や卒業したての頃と比べ、希望に溢れた未来を描く力が落ちてきていると痛感したことも含めて、大変有意義な機会となりました。

今回のテーマでもある20年後の薬剤師と医療に関しては、私にとっても他人事ではありません。20年後、薬剤師としてただ存在するだけではなく、これからの薬剤師と医療を作っていく当事者の一人であると思っています。「人が想像したものはいずれ必ず実現される」と聞いたことがあります。薬剤師になった者の責任として、20年後どんな薬剤師が社会に求められ、私はどんな薬剤師になりたいのか、実現したい未来を描き続けて自分に出来ることを探し、取り組んでいきたいと思っています。

最後に、私にとって“薬剤師としての初心の象徴”であるこのワークショップに今年も参加させて頂くことが出来ましたことを、心から感謝申し上げます。

第2回参加経験者 志田 拓頭

今回、卒業生として教育講演をするという貴重な機会を頂きました。

「将来、いくら調べても分からない疑問にぶつかることがきっとある。それを放置せずに追究すると、実は誰も知らなかった知見に辿り着けるかもしれない。現場で生まれた疑問点を突き詰めることすなわち研究することは、一部の人だけが行えばいいというものではなく、全ての薬剤師にとっての大切な責務だ。」

「医療の範疇に入る知識量が増大している。全てを覚えることは不可能なので、何でもかんでも知識を持つとするのは誤りで、我々は習得すべき知識を正しく取捨選択（特に“捨”）する必要がある。新しい知識が必要になったらその時に増改築を施せばよい。ただし、増改築に耐えうる土台をしっかりと“取”しておくことが重要で、学生時代の今こそがその土台を作る大切な時期だ。」

主にこれらのメッセージを込めたつもりです。少しでも感じていただけるものがあつたのであれば幸いです。

私にとって全国学生WSはとても重要なものになっていて、もしWSに参加していなかったら今の自分はないだろうと思うほどです。それは、たくさんの人と議論を交わすことができ、そしてその人たちと今でも繋がる事ができているからです。今回参加の学生の皆さんにとっても、このWSがその場その時だけでなく、これからにも繋がっていく何かになっていってくれればと思います。

第2回参加経験者 小嶋 崇弘

20年後の医療は？将来の薬剤師像は？自分ならどのように答えるだろうと考えながらWSに参加しました。WSに参加している学生さんは置かれている立場、医療環境の変化を非常に高いレベルで捉えていると実感した。これはデジタル社会到来により、迅速かつ簡便に情報が収集可能となったのと薬学教育でより実践的な実習が進んできた結果だと感じる。その一方で、情報があふれている世の中だからこそ、薬剤師不要論などのネガティブな情報に流され、薬剤師の価値・可能性を自分たちで下げるような意見も少なからず出てきたのは残念でならない。学生さんの中の議論の中で出てきた「薬剤師の地位向上」、自分が7年前にWS参加して目標の一つに掲げていたのを懐かしく感じた。実際に現場で働いている薬剤師は色々な所へアプローチできるし、情報発信もできる。ただその働きかけ

を行うか、業務に追われて行わないかの選択であると今は感じている。20年後の医療は、一人ひとりが自分の理想とする薬剤師に1歩近づくための努力と勇気にかかっているのではないかと思う。

卒業以来何度もWSに参加しているが一番刺激を受けているのは毎回自分であると感じている。WSを通じて思い出した初心、そして今後の可能性を実現できるものに変えられるよう日々精進していきたい。最後になりましたが、第9回全国学生WSで関わることができたタスクフォースの先生方、現役生、OB・OGの皆様から感謝申し上げます。

第3回参加経験者 一戸（井元）優美

「研究者は薬剤師でなくてもよいが、薬剤師は研究者でなければならない」…学生時代に私はこの言葉を大学から教わりました。それは今回のワークショップでの一つの答えだったりしたのかもしれませんが。

「20年後の未来」という今回のテーマはあまりにも未来過ぎて学生には酷なテーマだったかもしれません。しかし「そんなのありえない！でも実現したらすごく面白そう！…なんていう学生の立場ならではの案があるのでは?!」なんてことを期待していた自分に気づいたとき、それこそ他人任せだと自分で自分を戒めていた次第です。

帰路につく際にテーマに挙がっていた「セルフメディケーション」についてふと考えました。いつから薬局は「処方箋を持っていく場所」になったのだろうか？と。一昔前は薬店で栄養ドリンクや蚊取り線香を買ったりしていたと聞いたことがあるのです。その時代のいいところ、復活させたいな、なんて思っていました（知らないだけで余り知られてないだけなのかな？）。という私は病院薬剤師（兼大学院生）なのですが、結局どこにいても薬剤師にしかできない「知識」を活かし、ワークショップで得た「仲間」とともに変えていくのは自分次第。皆さんもそうですよね？

第3回参加経験者 志田 美春

学生時代には経験できなかった創薬の最前線で研究員としての道を歩み始めてから初めての参加であり、第7回と第8回を除いて今回で5度目の参加となりました。まだ社会人2年目ではありますが、卒業生の講師の一人として研究や薬薬連携の重要性について9期生の皆様にお話する機会を賜り、感謝申し上げます。創薬を実現するのは並大抵のことではありませんが、これからも世界中の人々がより健康で生活できることを目標に邁進いたします。

また、薬局や病院はもちろん企業などで働く卒業生の皆様との交流会では、各々が各々の社会経験をとおして独自の視点持つようになりましたが、卒業して数年たった今も職種は違っても私達は共に未来の医療を担う仲間、A11 薬剤師(=薬剤師免許所有者)なのだと再認識できました。これからも薬剤師免許の取得はスタートであることを念頭に置き、卒業生のつながりだけでなく、職種間の相互理解を深めて、医療の発展に貢献できるように努めます。

末筆ではございますが、参加者の皆様並びに、開催にあたり尽力くださいました皆様に厚くお礼申し上げますとともに、薬学の発展を心よりお祈りいたします。

今回のワークショップは1日目のみの参加でありましたが、学生と先生方との交流は滞在時間以上に価値のあるものでした。

学生達の議論に耳を傾けると、序盤から薬学・医療を取り巻く薬剤師の厳しい医療環境を捉えていることが分かりました。今後、薬剤師の活躍の場が奪われていくのではないかというネガティブな意見が飛び交う反面、薬剤師として薬局を基盤とした在宅医療・OTC・セルフメディケーションの進展、対人業務の重要性など薬局の多様性や求められる薬剤師像のイメージなどがしっかりと浮かんでいる様子を見て、私達が履修した6年制薬学教育から発展しているところをこの身で感じる事が出来ました。

今回も薬局薬剤師として講演の機会を頂き、私自身としては学生達が想像出来ている薬局薬剤師像以上に活躍の場があること、自分次第で可能性が広がること、その為に夢を大事に努力し続けることをメッセージに発表致しました。大学での講義で自ら薬学教育に携わる姿、テレビなどメディアに出る姿、地域の中で薬薬連携を推進し行政に携わる姿、これらが少しでも学生の活力になればと願っております。私自身も成長しなければと奮起させられました。またパワーアップしてワークショップに参加出来ればと思います。

第4回参加経験者 津倉 秀幸

今回私は見学を中心に参加させていただきました。今年のテーマは「医療そして社会への貢献～私たちで未来を創ろう～」。20年後の医療を想像し、薬剤師はどのように真価を発揮できるのか考えるWSでした。自分自身はいつの頃からか適度なゴールラインを想定し、それを超えない範囲の未来しか想像できなくなっていたのではないかと私が参加した4回WSで作ったキーワード「薬薬薬薬薬連携」（薬剤師には色々いるから皆で連携してより良いことを出来たらいいねと話していた、実質ALL薬剤師）を実現できていない現状を猛省しながら9期生の盛り上がる討論を見学させていただきました。9期生の作ったプロダクトはそれぞれの真剣な気持ちが籠ったとても良いものでした。直接見る事の出来なかったプロダクトもあるため報告書の完成が待ち遠しいです。

最後に、私たち卒業生に大変貴重な機会を与えてくださった日本薬学会の皆様と実行委員会の先生方、厚労省・文科省の方々、木下先生、第9回WS参加者、WS卒業生の皆様にこの場を借りて感謝を送らせていただきます。本当にありがとうございました。

第6回参加経験者 水野 稔子

昨年初めて卒業生として参加させていただき、学生さんや他の卒業生の方と熱い想いを語ることに魅了されました。あれから1年、その感動を忘れることができず、気がつけば再びワークショップの会場に向かっていました。

今回は、薬剤師の過去・現在・未来を、学生さんと一緒に考えることができ、とても楽しかったです。未来を想像するディスカッションで、既の実現している意見や、実現可能な地域に限られるような意見を聞いた時は、理想と現実の差を感じてしまいました。しかし同時に、自分次第では実現する日を早めたり、実現の質を高めたりすることもできるのではないかと感じました。

大切なのは、「どうなるか」ではなく、明日、10年後、20年後、「どうなっていたいのか」。個人でできることは少ないかもしれませんが、私も薬剤師として、皆様と一緒に未来を想像、そして創造していきたいです。

最後に、このワークショップに参加する機会をくださった皆様に感謝いたします。

第7回参加経験者 清水 智仁

20年後の医療はどうなっているか。

難しいテーマを目の前にして真剣に議論をしている姿を見て、とても真面目だという印象を受けました。一方で自信の無さを感じる場面もありました。

薬学の勉強を学び始めた1年生のころ、「20年後の医療」というテーマでディスカッションを行ったら、どのような発表となったのでしょうか。おそらく、今回のワークショップで作り出したものよりも、突拍子もなく、現実味も薄いものが出来上がったと思います。ですが、薬学の勉強をはじめたばかりの、現状に捕らわれず、「純粹に人を救いたい」という思いから想像した「20年後の医療」は作り上げるべきものです。薬学部の6年間で学んだことは、想像を現実にするためのスキルであり、現実的な想像をするためのものではありません。

私は現在、物流という薬の世界に必要な不可欠でありながら、薬剤師とは全く異なる常識の世界に身を置いています。その世界で感じるのは、医療業界というのは高度にシステム化がなされ、研究が積み上げられ、患者様のために奉仕をする世界であることです。たとえば、患者様の情報を共有する手段としてカルテや薬歴があり、誰もがSOAPという共通言語で書かれますが、物流の業界ではここまでシステム化されていません。

コミュニケーションについても、体系化された学問として成り立っています。

5年次に医療の現場に出て、いろいろ力不足を感じたかもしれませんが、薬学生が6年間で身に付ける力は、とても大きな力です。ぜひ、6年間で身に付けた自分の力を信じてください。

第8回参加経験者 沖村 里咲

20年後の社会。今回のワークショップで参加した学生たちが向き合ったものに、一体私はどれほど真剣に向き合ったことがあるだろうかとワークショップを見学させていただき思いました。社会が変わると思っていながらも、自分の10歳上、20歳上の薬剤師の姿を思い浮かべることだけで、薬剤師の将来像を描いていたことが多かったのではないかと気づかされました。見学という形で参加させていただきましたが、私がこのワークショップに参加していたらどのような意見を述べていただろうか、私は20年後の社会がどのように変わっていると思うのか、どのような社会を作っていきたいと考えること、そして学生たちのディスカッションを聞かせてもらうことは大変刺激的で薬剤師として働く上でのあり方を再度見直すことができました。来年度以降も卒業生が見学などといった形で参加させていただけるのであれば、是非参加したいと思います。先生方、関係者の皆様、この度はこのような機会をいただきありがとうございます。参加した学生の皆さん、活発な議論を聞かせていただきありがとうございます。

第8回参加経験者 熊野 諒太

私は今回第3部から参加させていただきました。私は去年、学生として参加し今年の4月から半年ほど病院で医療の現場を経験してからの参加でした。

様々なテーマがありましたが、現場をまだ経験していない学生だからこそその発想や考え方で、ユニークな回答が飛び交うところを見ることが出来ました。私自身、まだ半年間という短い期間しか医療の現場を経験していないのにも関わらず現場の型にはまっていました。自分が学生時代に持っていた発想や考え方を忘れてしまっていたのですが、ワークショップに参加し思い出す機会にもなりOBとして学生達から学ばせていただきました。今ある薬剤師というのは、今までの薬剤師たちが作り上げてくれた形でありこれからの薬剤師は私たちが作り上げていかなければなりません。

原点に立ち返ることで、道を自分たちで切り開き今当たり前ではないこと、それを当たり前前にできるようにしていかなければならないのだと実感させていただく機会となりました。それを、どのように当たり前にすることが出来るのかを現場でも考えていきたいと思えます。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださった日本薬学会の皆さまと先生方に感謝申し上げます。

第8回参加経験者 野尻 悠斗

薬剤師として、社会に出て半年になるが、今回も昨年が続いて、有意義な時間になりました。今回は、未来の医療、社会における、薬剤師について、考えることが主な課題でしたが、それを一つのプロダクトとして、まとめるのは、至難で学生たちも最後まで、苦戦していたように感じました。この会は、6年間の集大成の場であるとともに、そこから始まる初めの一歩の場でもあると思います。この会のプログラムを真剣に取り組むことで、新たな閃きや、発見、そして、仲間との出会いがあったと思います。それが一番のプロダクトだと思います。私も、今回参加して、多くの熱意に触れることで、初心の気持ちを再確認したと同時に、普段の生活を見つめ直すことができました。明日を一人でも多くの方が健康である日にするために、強い熱意を持って、今、出来ることから取り組んでいこうと思います。最後になりましたが、日本薬学会ならびに関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

第8回参加経験者 船橋 恵実

今回はOGとして初めての参加となりました。WSを客観的に見る立場での参加であると、去年、課題をグループで作りに上げてみんなとの共有を行うのに必死であった自分を客観的に見る機会が頂けたような気がしました。去年のWSでできた同期の子達が、それぞれの場所で、それぞれの立場で頑張っているのをWS中に聞くことが出来、新しい環境に慣れずに、色々と思い悩んでいたのは自分だけではないのだな、と内心安心するとともに、思い悩んでウジウジせずに前を向いて頑張ろうと思えるいい機会になりました。今回OGとして参加して、同期との交流とともに、去年はほとんど話す機会が得られなかったOB、OGの先輩方とお話することで、社会人の先輩としてのご助言をたくさん頂くことが出来たのも大きな収穫となりました。来年度のWSも参加して、来年できるであろう、後輩に少しは先輩としてアドバイスできるように、これからの1年を有意義なものにしていきたいと思えます。

第8回参加経験者 宮坂 知英

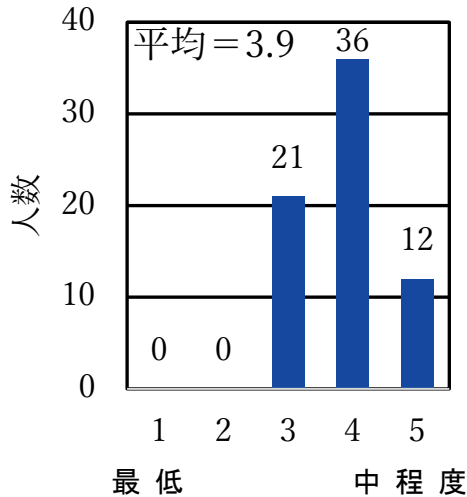
昨年、第8回全国薬学生ワークショップに参加させていただき、今回は卒業生として学生の討論を見学させていただきました。途中からの参加でしたが、このワークショップに参加したことは、私にとってかけがえのない経験となりました。昨年出会った同期のメンバーや先輩、先生方と久しぶりに再会し、多くの刺激を受けることができたからです。全国の薬学生が自分たちの未来について真剣に討論を交わす様子を見学することで自分自身の考え方だけでなく、多様な考え方があることに改めて気づかされ、自分の視野の狭さを痛感しました。自分は社会人になったばかりで、わからないことが多く大変ですが、日々勉強し、このワークショップを通じて出会った仲間とのつながりを大切にし、切磋琢磨しながらこれからの薬学の発展に貢献できるよう自己研鑽に努めていきたいです。

最後になりますが、このような貴重な機会を設けてくださった日本薬学会ならびに関係者の方々に心より感謝いたします。本当にありがとうございました。

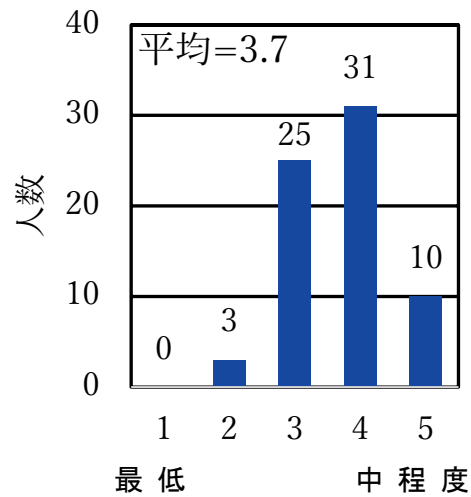
参加者アンケート結果

1 日目の評価

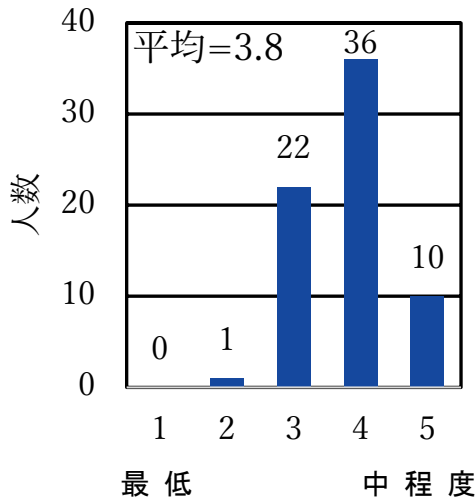
1. 今日のワークショップの流れにスムーズに入り込めましたか。



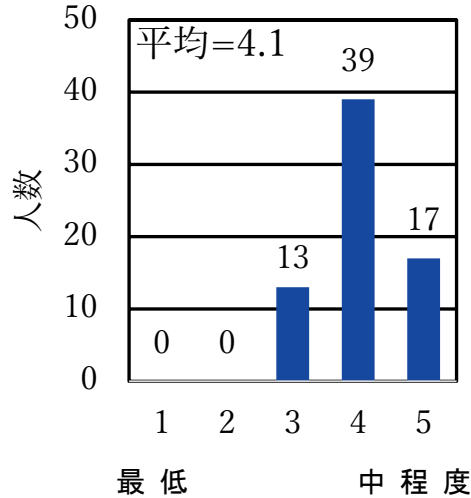
2. 今日、あなたは討議にどの程度参加されましたか。



3. 今日の内容は、あなたのニーズにマッチしましたか。



4. 今日のタスクフォースの仕事はよかったですか。



5. 今日、よく理解できたことは何でしたか

- 自分が何をしたいのかももっと深く考える必要があることがわかった。これからを考えなければ薬剤師の職能を広めることができないことを痛感した。
- 20年後は正直わからない。理想はあるが今学生の自分がどこまで変化に関わるか未知であり、思い上がりかもしれないが面白いと感じた。
- 制度をかえるには現場が変わらなければいけない。自分が何をしたいのか。何をするか。
- 大きなこれからの方向性が少しわかったような気がする。
- 他大学の方の意見が自分と異なることが多数あり刺激になった。これからどのような方向性で努力したら良いか。
- 今後（数年後）薬剤師に求められていること
- セルフメディケーションの必要性、一時診療の必要性とともに実現への課題

- 誰かがしてくれると待っているのではなく何事も自分から行動しなければならないということ
- 未来の医療を考えそのためにやるべきこと。薬剤師として身に付けておくべきことを理解できた。その一方で未来は予想できないことも多くあるので、柔軟な考えをもって行動する必要がある。
- みんなの意見や考え方が伝わったと思う
- 自分を主語にして行動をおこしたり考えていかないといけないということ
- 自分が何をするか何ができるかを日々考えないといけないということ
- なぜそう考えるのかを考えることが大切であると、グループワークでわかった
- 目標を持ち、そこにたどり着くための具体的なイメージを抱くこと
- わからないことを調べたり教えてもらうことはたとえできて、もやもやが残っていないことが大切だと感じた。熱意や探求心の大切さ。
- 自分の意見や主張が少ないこと。どんな薬剤師を目指すか定まっていないこと
- 未来を変えていくのは自分自身であること。自分自身が熱意、目標をもって行動していかないと未来は変わらない、他力本願な深層心理が気付けてよかった。
- KJ法のやり方。薬学教育の現状と展望について。
- 活発なディスカッションはよりよい意見につながる
- 紀平先生のお話は心に刺さりました。午前中自分の中でもやもやとくすぶっていた思いを代弁して頂けたようで大変すっきりしました。自分は何を考えるか、ということを明確にして明日からのワークに参加したいと思います。
- 一般的意見を考えることも大切であるが自分自身が何をしていくかを考え、実行することが大切である
- 20年後の医療は予想不可能であること。しかしその中で自分たちで想像しうる医療の未についても理解でした。
- 今後の医療に必要なことについて他大学の学生がどのようなことを考えているか。
- 人それぞれ目標や思っていることなどいろいろな意見があるということ
- 現状、今後、何をしないといけないのか。特に「自分」が何をするのか考えて行動することの必要性
- 同じ薬剤師でも考え方、着眼点が大きく異なっていること
- 東北大学での薬学教育について科学的な知識は充分であるが、薬剤師における知識はあまり身につけていなくて、他大の人たちと大きなギャップを感じた
- 自分の考えの甘さ。あいまいなビジョンしか見れてない。もっと自分が何をしたいか明確にすることを頭に入れて明日のディスカッションに臨みます。
- 厚労省の福島様、PMDAの紀平様の話より、自分自身で考えて、本気で行動にうつさなければ薬学の未来は変わっていかないと痛感しました。
- 20年後のことは先生方も良くわかっていないこと
- 他大学の学生とこういった議論をしたことがなかったので、それぞれの意見がとても新鮮だった
- 大学間での実際の授業内容、実習体制、卒論政策のちがひ。将来像をきちんと持つ大切さ。
- 薬学の将来を考えると、20年後など遠い未来だと想像もつかないことが起こるので常にアップデートする必要があるということ
- 20年後の医療を想像してそのために薬学教育をどのように変えるという点について十人十色の考えがあることを理解できた。
- 自分たちが未来を作ること、そのために課題がたくさんあって、強い志が必要だ

とわかりました

- 未来のことは誰にも予測がつかない。日々の積み重ねが制度をも変えうる。
- 最近の医療の動向、今後について
- 各大学でカリキュラムの違いがあることを痛感できました。将来についてそれぞれが感じていることの同じ考えや異なる考えがあること。
- 今後薬剤師の活躍の場は多岐にわたっていることを理解した
- 他の学生たちが普段何を問題だと考えているかよくわかった
- 今日議論したこと、未来の医療は私たち自身が創っていく。きりひらいていく！
- 何事にも熱意だということ。自分に足りない。
- 同級生や先輩方が将来の薬学、薬剤師そして医療に対する考え方。
- 他大学の方が自分が持っていないような意見をたくさん持って、皆がそれぞれに薬学と将来について思いがあるということがよくわかった。また大学によって本当に制度が異なり、同じ6年制であるということにもかかわらず、学びも違うということがわかった
- 研究職で仕事をしない自分でも、研究者マインドを持って日々自己研さんすることの重要性を理解することができた
- 未来のための動くのは自分であること
- 未来の医療のために「自分が」行動を起こさないといけないこと。最後の講演がすごく心に残りました
- 薬学教育、研修課程を見直すべきだと考えることができた。また、そのために必要な具体的な案も考えられ個人的には満足している
- 過去、現在、未来の薬学教育について、グループの参加者と自分の意見を交換し、他の大学での教育や足りないと感じていることなどを様々な意見が聞けて良かったです。
- たくさんの方がいていろいろな意見が得られたこと
- 同じ6年制の薬学生が、それぞれの意見をもって、薬剤師やその他の職種を目指していること
- 将来の薬剤師あり方や今後自分が何を考えながら様々なことに取り組んでいくべきか意識を向上させていく必要性を感じた
- 20年後の医療をより良いものにするために、日々自分が何ができるか考えなければならないことを理解した
- 同じ分野を学ぶ他大学の学生について（考え方、感じ方の共通点の多さなど）
- 他大学には自分の大学にはいないようなタイプのレベルの高い学生がたくさんいるということ
- 6年制の教育を受けた上でも、将来進みたい進路は異なるということ。薬学、薬剤師の職能の多様性を感じた
- 自分に何ができるか、何をしたいか、しっかり考える必要があることは理解できました
- 未来の医療に関して多方向から検討できたこと。問題解決のためにPSができることが多いこと
- 20年後の社会から、医療現場がどのように変化し、それに対し薬剤師はどのような能力を求められるのかについてグループ内でディスカッションすることで、理解を深められた
- ある班が、コミュニケーションとは、相手の知らないことを教えることだと定義していて面白かった。全体的に議論がぼんやりしてしまった印象だったが、PMDAの方が自分は何をしたいのかということ意識するようにとおっしゃっていて、明日からのセッションに活かしていきたいと思った
- 薬剤師が他職種よりも強い分野を現場で生かし、現場を変えてから制度を変えていくような熱意が大切であること。

- 他の学生が考えている薬剤師像。教育制度への様々な不満、不安
- 目指す将来が異なっても志が似ていること。まだまだ未来を想像できないこと。
- 他の学生が考えていることを多く聞くことができ、今後の薬剤師のあり方について改めて見直すことができたと感じることができました
- 「自分は何をするか」を話し合うことで未来へつながるということ
- 自分の考えをSGD内でただ述べるだけではなく、自分が何をするかということにも重点を当てたSGDの大切さを学びました
- 大学毎に教育内部が大きく違う
- なぜ6年間の薬学教育で現行のカリキュラムが実施されているのか?ということ。
- コミュニケーションとは何か。将来の薬学についての討議
- 将来自分が薬剤師として活躍できるようになるためには何が足りていないのか

6. 今日、あまり理解できなかったことは何でしたか

- 20年後の未来
- 20年後という未来を予測して話し合うのが難しかった
- 20年後の未来像がなかなかイメージできなかった
- AI機械化は重要なことはわかったが、どこまで導入するかがイメージしにくかった
- 一般の方に推進するための力はどうつけるか
- 他大学のことは実感が沸かなかった点もあった
- 結局20年後はどうなるか。
- 20年後を考える上でどのようにイメージしたらいいかわからなかった(20年でどのくらい変わるとかよくわからないから)
- 20年後の医療は私たちの想像をはるかに超えていて、現時点で理解するのは難しいと感じた
- AI化ICTなどの言葉は知っていたけど具体的などんなのかを知らなかった。
- 未来の薬剤師に求められていくこと
- 20年後である意味
- 20年後の未来を予想するのは難しかった
- 真剣に20年後の医療について考えるのは難しいことだと思いました。
- 20年後の薬学が具体的には想像できなかった
- 処方権についてのとらえ方
- 医療経済については勉強不足を痛感しました
- 薬剤師の処方権について
- 結局のところ20年30年後の医療はどのようになっているのか
- 最後のセッション(講演)でも質問や議論の時間が欲しかった
- 医療の輸出が国費に還元されるということ
- 20年後の医療を想像するということが、どうしても抽象的になってしまった
- これからの薬学に求められることを、具体的に自分ができていることで考えることが難しかったです。
- 自分の考えを伝えるのが難しかったです
- 医療の制度等、理解が不足していた
- 具体的にどんな行動を起こすかあまり理解できなかった
- 処方権について。患者にとって薬剤師が処方権を持つメリットを今後考えていきたいと感じた。
- 全体的にもやっとしていく。

- 自分が知らない用語が出てきたときに十分に理解することが出来なかった
- 制度業務のメリットデメリットについては理解できたが「自分が何ができるか！」という点についてうまく議論できなかつたと思う
- ホテルまでの道のり（細い道を通るとは思わなかつた）
- より具体的な20年後
- 20年後どうなっているかがあまり想像しにくかつたです
- タスクフォースの方々の思いが熱すぎて、議論の方向性のコントロールに苦戦したためタスクフォースの方々の意見を伺う機会を別に設けていただきたかつた（大変ありがたいお話が少ししか伺えなかつた）
- 薬剤師が医療において、どこまで広く手を出せばよいかわからないままなので考えていきたい
- 20年後の薬剤師像を深く考えられていなかつたと感じた
- 20年後の医療・薬学に関して。未来について議論はできたとと思うが近未来だと感じた
- 20年後の未来についてあまり具体的に考えるのが難かつた
- 20年後求められることに対して、どのような教育等が必要になるのかについて
- 他の班のディスカッションを聞いて、20年後の未来などみんなぼんやりしているということが分かつて良かつた
- 20年後の想像が難かつた
- 20年後の具体的なイメージ
- 結局20年後は予測不可能

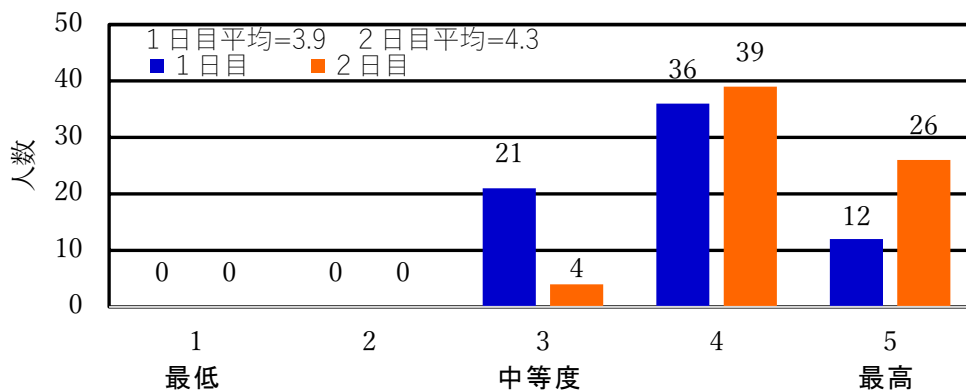
7. その他のご意見（ご自由にお書き下さい）

- 討論内容に意見くれることはありがたいが、話の流れは把握してほしい
- 時間がタイト。Discussionに時間がもう少しほしい
- 前の席は少し首が痛いです
- 先生方のサポートが充実しており非常に快適なディスカッションができました。ありがとうございます。
- 他大学の学生の意見交換ができてとても有意義でした。ありがとうございました。
- 熱意のある講演を聞くことができてよかつたです
- 多くの人と話ができて良い経験ができています。ありがとうございます。
- ファシリ先生の誘導が分かりやすかつたです。
- せっかく全国の学生がいるので、ディスカッションの追加や質疑応答にもうちよつと時間をあげてもいいのかと思いました
- 紀平先生のお話はとてもためになりはつとさせられました
- タイトな時間組も含めて、ハイレベルであると感じました
- 来年の方に私たちの代で至らなかつた点を引き継いでいただけたらと思います
- もう少し休憩が欲しかつた
- 紀平さんの話が胸に刺さつた。が、学生の力ではどうにもならないことが多いと思つた
- 全国の薬学生の皆さんとお話しする機会とても重要だと思つるので明日も全力で取り組みたいと思います
- チームを変えての議論もやりたいです
- KJ法の時間配分が難しくなつてしまいました
- しよせん、薬学生なので制度等のことは机上の空論に近く、学生間の質疑応答もいいけど、一言でいいので先生の意見が聞きたいです。
- 自分の将来に対する意識の低さを痛感しました。

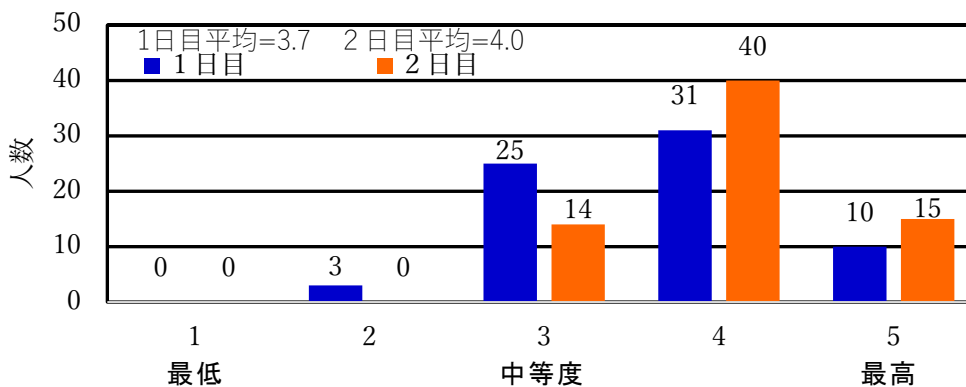
- 刺激的な1日でした。2日目よりディスカッションに参加したいです。
- 我々が常に学ぶ意識を持たなければテクノロジーの進展についていけないし、医療の発展を支えることはできないと感じた
- 「現場が動かないと制度が変わらない」との言葉を胸に刻んでいきたいです。意見交換が熱意をもっていてとてもためになる会です
- 他者の意見や考えを聞くことは刺激的であり、勉強になると感じました
- 活発な討議ができておもしろかったです
- もう少しこまめに休憩があったらいいなと思いました
- 6年間、自分がやってきた勉強や学外活動の意義・重要性が完璧に理解できました
- このWSに来るのは不安でしたが、志の高い人がたくさんいてとても充実したWSになっています。まだ明日もあります、しっかりとこの経験を大切にしていきたいです
- 今自分と同じ薬学部性がどのような思いで学生生活を送っているか薬学の意識を感じました

第2日目の評価

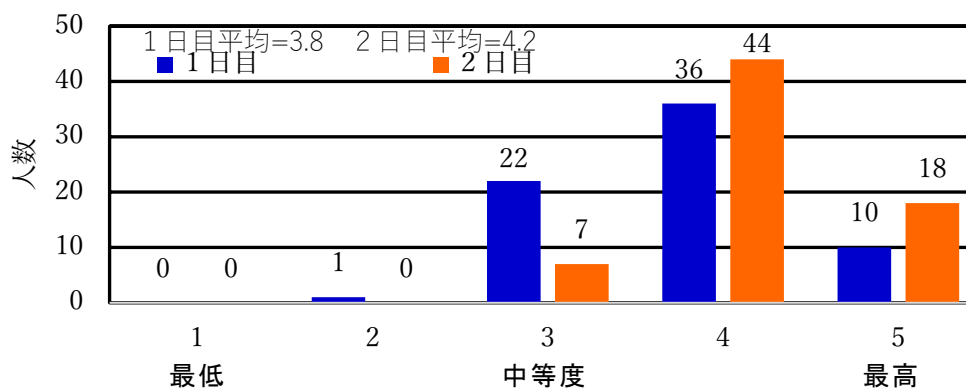
1. 今日のワークショップの流れにスムーズに入り込めましたか。



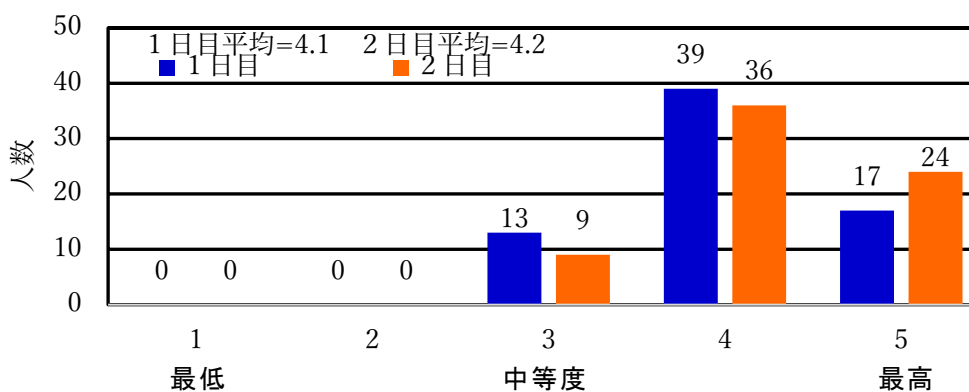
2. 今日、あなたは討議にどの程度参加されましたか。



3. 今日の内容は、あなたのニーズにマッチしましたか。



4. 今日のタスクフォースの仕事はよかったですか。



5. 今日、よく理解できたことは何でしたか

- 薬剤師が何をしているかを広め評価をされるのを待つことが大事。その為に行動し、日々に疑問を持つ
- 薬剤師が必要とされるには、求められている仕事が本当にできているか、反省していかなければならないと思った。そのうえで、制度ができるのを待つのではなく、自分たちから動いて認知されるようにしないといけないと感じた
- 制度が作られるのを待つのではいけないこと。そもそもその制度は誰の為のものであるか、考える必要がある
- 薬剤師としてどんな環境（職場）でも、サイエンティストである自覚を持ち、ロジステックに問題解決又は問題を発見していくべきだ
- professional の社会的な使命がある
- 薬剤師として未来を創っていくために必要なことは何か
- 薬剤師の未来をつくるためには、研究を生涯にわたっていくこと。自己研賛を引き続き行っていく
- 研究する姿勢が大切
- 薬剤師の未来は自分たちで積極的に使っていないといけないということ。
- 薬剤師としての職能を発揮していくことの重要性
- 未来に向けての土台作りをしていかなければならないと実感した
- ALL 薬剤師の視点で現状と未来を考える
- 未来は私たちが創る
- 自分が何ができるか、したいかを行動に移すこと
- 6年制も薬学教育に対してもやもやと思っていたことが、語言化出来て良かったか思います。2日目の議論を通して他の人の熱意や薬学教育に対する思いがより深く理解できました。
- 未来をつくるには自分自身が動く必要があること
- 日本の医療情勢の現状とこれからについて
- ALL 薬剤師の意味（薬剤師として活躍するフィールドやアプローチ方法がたくさんあること）
- 他大学では1-4年の間に病院などに行く実習がないことや臨床の先生の授業、命の授業がないこと。昭和大学のカリキュラムは素晴らしいこと。
- プロフェッショナルとスペシャリストの違い。薬剤師は医療人であり、科学者であるから生涯学習する姿勢を持つことの重要性。それを患者に落とし込んでいくことの必要性。20年後の自分たちが成し遂げるための共通の目標
- 薬剤師は薬のプロフェッショナルであること
- 制度化してもらうまで待つのではなく、自分たちでいまできる範囲のことを積極的にやることで、それが将来的な制度化につながる
- 医師と薬剤師は同じ土俵にいる→薬剤師自身が気持ち・行動で地位を下げると思い込んでいる。患者さんにとって何が必要か客観的に考えて、自分のしている行動はそうなのか、評価・分析して、必要とされることを考え続けて行動し続ければ、制度につながる
- 他の職種に任せるのではなく、薬剤師でやれることは自分だけでやること
- 薬剤師になる私たちに求められているのは、自分たちが行動することであるとわかりました
- 20年後の医療について想像した結果、様々な意見が聞くことができ自分の視野が広がった
- 自分が行動することが大事(制度を変更したいなら評価してもらえそうな働きをする)

- まずは自分が動いて行動してから制度が変わっていくというところが昨日の紀平さんの話から引き続いてよくわかった
- 医師の方からのお話、安川さんのお話など学びが多かったです。特に最後の前に3人いる会の質問会は良かったです。社会人になって博士課程を取りに行けるか調べようと思いましたが
- 制度を待つのではなく自分で作っていく
- 臨床において、クリニカルクエスト等を常に持つ
- 未来を変えるのは、我々の意志
- 制度を変えるためには、まずやこと（仕事等）をしっかりとってから
- 20年後の姿を想像してそれに対するプロセスを考えるとという物事の考え方の順番を理解した
- 待つのではなく自分が変わることが大事。日々、疑問を持ち続けることが研究マインドにつながる
- 漠然とした未来の話よりも、今自分たちに何ができるかを考えることができてよかった
- 働く場所が違って研究をして、活かしていくことが大切だと感じました
- 研究マインドをもち、問題解決能力を身につけることが今後必須。未来は私たちが創っていく。
- これから私自身が何をできるか、具体的な行動が分かりました
- 求められていることは積極的に実行した方がよい。社会的使命を持つことの大切さ。予測できない未来だからこそ、いろいろやっておこう。
- 就職後の研究、生涯研費の重要性、コミュニティの輪が広がりやるべきことをやる。先を見据えて自ら動く
- 一人一人が薬学、薬剤師の将来を常に考え、自分にできることを考え、実践すること
- 1日目同様に、制度など誰かがやってくれるのを待つのではなく、現地から自分から積極的に行動しなければ薬剤師の環境も未来も変えられないということがわかった
- 未来は自分で作る
- 木下さんと安川さんのお話がすごく興味深かったです。貴重なお話が聞いて良かったです。
- 未来の事を常に意識して行動に移していくことの重要性を認識した
- 自分（達）の行動一つ一つが未来をつくる
- 薬剤師として、今やるべきこと、できることをやる。制度を待つのではなく行動する
- 薬剤師は professional であり、自分が未来を変えるという姿勢が大切だとわかった
- 全体の発表を通して研究ができる薬剤師になることで、臨床から研究へと幅広く仕事ができる人になることができると理解できた
- 薬剤師として、今後自分で考え、行動していくことが必要であること。ALL 薬剤師として様々な場所で薬剤師が活躍していく必要があること。
- 常に問題は何かを考え、変わろうとすることが大切だと思った。スペシャリストとプロフェッショナルな薬剤師になれるか考えていこうと思った
- 薬剤師は薬剤師にしかできないことを行うのが大事。科学者として日々の業務の中で課題を見つけ研究し続けることが大切。
- 20年後にどういった未来になっていて、そのために今から何ができるか考えていくこと
- 将来の医療の為に自分にできることは何か。日々対等ではなく、PSにしかできない事を極めるべき
- 自分たちが動かないとことは動かない。プロフェッショナルの意味。
- 客観的、冷静的に薬剤師の未来について考えること

- 生涯学習や研究への熱意などがないと現場や制度を変えることはできない。薬剤師ができることを考える必要があること。
- 私が動くことで変わる、私が動かなくなったら進歩は止まる。薬剤師としてのプライドをもって働く。
- きてほしい未来を作るためには自分たちで行動すること
- 20年後の予想不可能な未来を創造するためのプロセス
- 20年後に求められることを実現するために今できること。これから必要なこと。
- スペシャリストとは。自分が目指すべき薬剤師像（周りの話を聞いて）
- NBM
- 言うのは簡単。まずは動くことが大切。能力の担保を考えること。
- 薬剤師地位向上を目指すのではなく、今ある業務に全力を尽くすことの大切さを学べ、理解できました
- スペシャリストとプロフェッショナルの違いについて理解することができました。

6. 今日、あまり理解できなかつたことは何でしたか

- 学生の立場としてできること
- 薬剤師の位置向上について、目に見える位置としては Dr と同等かもしれないが、一部の場所かもしれないが、意識的に Dr から下に見られているのかな。疑似照会時の Dr の対応等。
- 医療者の待遇
- どうやって「研究したい」と思わせるのか。現状として、研究をほとんどやらない大学（研究室によっては研究機関 2 週間とか）もある中で、どうやってこの現状を変えるのか。なぜこんなに大学ごとに差があるのか。
- 理解というかほかの人の意見が多く考えつかなかつたことがあったため勉強になった
- 社会の未来について
- 結局、このテーマを通して明確にすべきことは何だったのかが分からずに終わってしまった気がします。会が始まる前にシュートゴール（？）でもいいので、何か目標を立てておくべきだったのかなと感じました（個人の目標です）
- 20年後の未来
- 学校薬剤師の制度化？薬剤師の地位向上
- 研究や研究マインドという言葉を使う方が多かったが、果たしてどの程度が研究とっていいのかわからなかつた。小さいことでも研究というのならば、それでも医療にフィードバックできなければ意味ないと感じる。
- 薬剤師が国民に求められていることが何かをもっと知る必要があると感じました
- （フィジカル）アセスメントが必要か否か
- 制度の構築のために具体的に何を実施すればよいか
- 今の自分はできることが限られている中で、20年後という未来に必要なことを考えることが難しかったです
- 20年後の世界を想像することは難しく、イメージをつかむことが困難であった
- 今後の社会保障
- 全体討論（発表？）が短すぎて、他のグループ（I、II）の内容があまり入ってこなかつたです。
- 未来（20年後）の世界の考え方
- 「20年後」というところにフォーカスが当たらない結末になり、個人的には意見のまとまりに納得いかなかつた

- 時間がタイトだったので、他の班の発表に対して質問できる時間が少なく、深掘り出来なかったと感じました
- 現場を変えるために制度化するのは本末転倒という話があり、現場の薬剤師一人一人の意識を変えるためにはどうしたら良いのか
- 薬剤師にしかできない事って何だっけ？となった。これから考えなければならない。
- 薬剤師の地位。本当に医師と同等の立場に立てているか。様々な実習先の話を知っているとそうでないことも多いように感じる
- 未来の医療制度について
- 診断とアセスメントの違い
- EBM 実施のための文献の調べ方評価のやり方をもっと勉強しなければならないと感じた
- 地位向上のニュアンスがよく分からなかった
- 20 年後どんなふうになっているのか（20 年後は予想不能すぎてすっきりしないまま討議が終わってしまった）
- 薬剤師や学生の意識を変えるために何ができるのか
- 理解できなかったわけではないのですが、やはり未来がどうなっているかを考えてそこから自分がどう動けばいいのかを考えるのは難しいと感じました

7. その他のご意見（ご自由にお書き下さい）

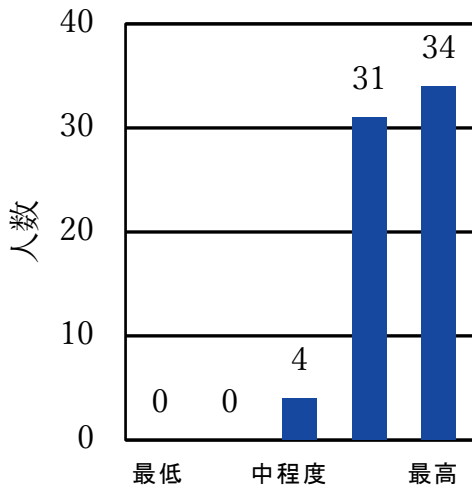
- 生意気なことを書きましたが 2 日目は討論内容に沿ったアドバイスをたくさんいただきありがとうございます
- D 進仲間が見付けられて嬉しかった。情報交換していきたい。
- 楽しい討論、熱意ありがとうございました。
- 朝が早かった
- 2 日間にわたり、未来の医療、薬剤師について考えてきましたが、多くの人の意見に触れることで多方面から物事を考えることができました。ありがとうございます。
- 「研究」について考えることができてよかった
- タスクフォースの先生のご指摘が確かに的確ではあったのですが、どこか議論を中断させて場面を凍らせてしまうような部分があったのは残念だと思いました。
- 総合討論の必要性が分からなかった
- 厚生労働省の先生のお話しが非常に興味深く面白かったです
- 2 日間のワークショップを経験して、様々な人の考えを知ることができたので、今後の人生に良い刺激となりました
- 手元に資料があった方が席が後ろの人にも良いと思った
- 最後の発表時間が短い。総合討論の学生から聞く回数が少なめ
- 最後の発表の時間が短い。最終的なまとめが 1 番大切だと思うのにそれを 2.3 分で発表するのは厳しい
- 2 日間、このワークショップに参加できて良かったです。ありがとうございました。
- 最後の 3P の発表はもっと時間を長くしてもいいと思いました。2 分でまとめて結論しか言えないとなると、どこも同じ意見にしか聞こえないので。
- 3 名のパネラーの方の貴重な意見を聞くことができて良かった
- 総合で 1~3 グループの発表を聞いたら、思いのほかほかのグループでは自分のグループと違う話の流れになっていたのでおもしろかった
- 厚生労働省の方から直接、現在・未来の制度についてお話を聞けて勉強になりました
- 同じ熱量をもった学生同士での議論はやっぱり楽しい
- 他のチームの意見をもっと聞きたかったです

- 全体のディスカッションもう少し時間ほしかったなあ。(Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのやつ) いろんな人の意見や主張の強さをみれてよかった
- 臨床現場での問題解決能力の必要性を改めて感じた
- 6 で書いたように 20 年後を想像することは難しい話だが、逆に言うとそれだけの可能性があるので、薬剤師の未来の為にも自分から積極的に考え、行動したいと思う
- 2 日間ありがとうございました。今後何を意識して生活を送っていくか。意識を向上させることができ、とてもいい仲間にも出会えました。
- 今回の WS に参加させていただいて、全国の仲間（薬学生）と意見を共有できることができ、いろんな面から視点を変えて考えることで、自分たちの未来をどう作っていったらいいか理解できた。良い機会になりました。
- 他のグループ（ⅠとⅡ）の話し合いの内容も聞くことができ良い刺激になった
- 実習先による格差だが、勉強できる内容もあると思う。短期間複数にできないのか（11 週間 2 回ではなく）
- 議論が止まったとき（止まりそうなとき）タスクフォースの田村先生にとっても助けていただきました。ありがとうございました。
- 最後の全体討論、2 分は短すぎると感じた。聞いている方がついていくのが大変だった（みんな早口すぎて）
- 昨日に比べ、グループの人とも打ち解け、よく討議しやすく、とても熱のこもった WS になりました
- 全体の討論時間が短い
- 朝が早かった
- 非常に勉強になりました
- 薬剤師が医療行為をするべきかどうかについては少し考えていたこともあったので、本日の話で行為を行うことよりも、それより前は処方提案などの重要性について理解することができました

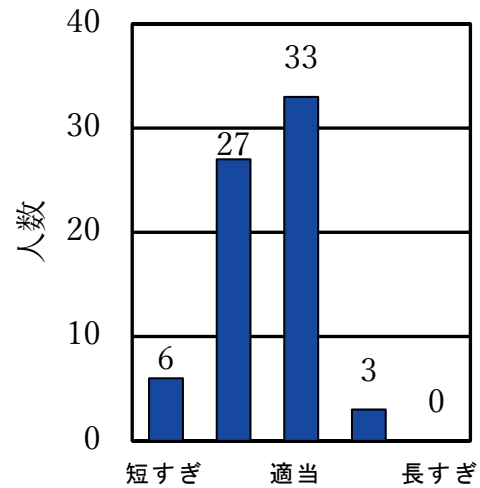
ワークショップの総合評価

1. 今回のワークショップを全体的に評価してください。

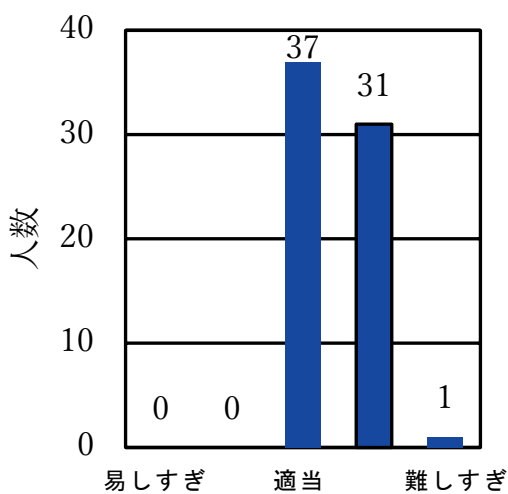
1) 内容の価値について



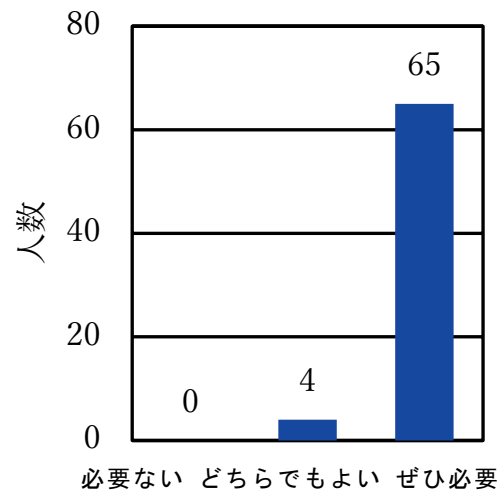
2) 内容に対する時間について



3) 内容の難易度について



4) このようなワークショップを継続することについて



2. 今回のワークショップでよかったと思われることをお書きください

- 今まで未来がどうなるかをしっかり考えたことはなかったが、今回のWSを通して薬剤師が色々なことができることを認知してもらうためには制度ができるのを待つのではなく、自ら動いていく大切さがわかった
- 他大学が大学出で何をしているか、どのような考えを持っているのかがわかることができ、自己の向上心を高めることもできてよかった
- 普段話を直接聞くことがない人の話をたくさん聞いたこと
- 少数制でKJ法、ワールドカフェ等いろいろなワークショップを経験できたこと
- 他大学生と交流できた。特にD進仲間とディスカッションができ刺激を受けた
- 普段学校にいただけでは考えないようなことを考え、討論できたこと
- 20年後を考えるとというテーマがすごくふわわとしていてなんだろうと思っていたが、自分たちがこれから進む道で頭を最大限に使って考えなくてはいけないことが多いと気づけ

た点は有意義であった

- 普段関わることのない人たちといろいろ discussion できたのはとてもよかった
- 他大学の方と様々な意見を交わすことで、今まで思いつきもしなかったことが思いついたり、自分の知識不足を痛感しました。これを機会に多方面から物事を考えるようにしていきたいと思います
- 他大学や様々な方の意見を聞くことができ、今まで自分になかった視点を見つけ出すことができた
- 他の大学の学生と関わることで薬学教育の良い点、悪い点が少しわかった。レベルの高い学生の中でディスカッションすることで自分自身の意識向上につながった
- 講師の方々の発言でこれから働いていくうえでの心構えなどに気づくことができたこと
- すべての立場を全員が経験できること（討論中）。政府、薬学会など様々な立場の話が聞ける。
- 他大学の人と話ができただことは良かった。今回のワークショップは未来の薬学の土台だと感じた。とても勉強になった。
- 普段会わないような大学の人や偉い方々と交流できて見聞が広がった
- 他大学の人と仲良くなれて、今の薬学部の現状や未来の薬剤師のあり方について深掘して話し合うことができた。意識が高くて自分にはない考えをたくさん聞けて良い刺激になった
- 違う大学の学生同士で議論できたのは非常に貴重な経験ができました
- 最初から最後まで学生主体で SGD 討論をさせたこと。日本薬学会の先生方、OB・OG が積極的に場を盛り上げ、学生の補助をし、やる気を引き出したこと
- 他大学の学生の意見や意識が知れてとても刺激的だった
- 志高い学生同士が出会いつながる場ができたこと。その上で質の高いインプットがもらえ、未来を想像できたこと
- 他大学の学生と関わる事ができたこと。いろいろな意見を聞き、刺激を受けることができたこと
- 熱意のある先輩の話聞くことで自分自身のモチベーションになった。先生方の講義を聞くことですごく視野を広げることができ、自分がこれからは何をしていけばいいかの良い道しるべになった
- 他大学のやる気のある学生とのディスカッションは非常に得るものが多く、2 日間という短い時間ではありましたが、自分自身とても成長することができたと思います。昭和大学のカリキュラムは他大学と比べても素晴らしいものであったことを再確認できたこと
- 今現在の薬剤師や社会の動きではなく自分たちが中心となっている 20 年後のことを考えられたのがよかった
- 初めての人同士でディスカッションができたこと→今後の他職種とのチームワークの形成につながるチームワークが形成できたこと。未来を変えるきっかけができたこと。未来を常に考えている方々のお話が聞けたこと、自分の欠点を見つけられたこと。
- 他大学の学生と日本の未来、薬学教育、薬剤師の仕事についてこんなに討論できたことはとても良かった。文科省や PMDA の方など普段はあまりお話を聞けない立場の人から話を聞くことができ、役所の人たちが考えていることが少しわかった
- 色々な考え方、希望職種を持つ同学年の人たちと話せる機会を得て、有意義な時間であった
- 未来の医療を考えることで、私たちがどうすれば良いかを考えるきっかけとなりました
- 誰もわからない 20 年後の医療について同じ学年の仲間と話し合い考えた結果自分の視野が広がったこと

- 普段、話す機会のない他大学の薬学生と話せて刺激を受けた。薬剤師として、自分が医療に貢献できることがたくさんあることに気づいた
- 考える力が成長できたと思う
- 厚労省の方とお話できるのは良かったです。未来の事がどういう風に向かっているのか、国はどう考えているのかが分かったので、自分がどうしていくべきか、どうしていききたいか考えやすくなりました。
- 他大学で学んでいることやカリキュラムのうち重点をおいている部分の違いを知ることができておもしろかった。みんながそれぞれの意見をもっていて、その話を聞くのがおもしろかった。きちんと班全員の意見を聞くことができた。
- 先輩や政府、薬学会など普段お話を聞くことができない方々のお話から聞けること。全国の学生と授業では深く考えない未来について話し合えたこと
- 全国の進路の異なる薬学生と交流できること
- 普段聞けない話をたくさん聞いたこと。周りの人たちの意見が高く刺激されたこと。
- 薬学教育における研究の意義について深く理解することができた。制度を変えるためには我々の意識を変えていく必要がある。
- 様々な大学の同期と関わることで、物事を多角的にみることができよかったです。また、普段では聞けないような厚労省や文科省の方のお話を聞くことができて良かったです
- 他大学の人たちとこれだけの規模で会い、話すことが楽しいことだと気づくことができた。大学間の違いがあるが、お互い意見を出し合いよりよい結論をだすことができた
- 全国の大学から集まった薬学生と普段学校内では暑くて語るようなことについて、真剣に話し合うことができ、本当にいい機会だった。皆が薬学に対して何らかの不満と改善策をもっていることが知れたことは貴重だと思う
- 普段は他大学の薬学生と話す機会がないので、様々な人との交流はとて素晴らしい刺激になりました。また、ディスカッションして終わりではなく、フィードバックをいただくことで、今後求められる本質的なことが明確になりました。
- 普段は他大学の薬学生と話す機会がないので、様々な人との交流はとて素晴らしい刺激になりました。また、ディスカッションとして終わりではなく、フィードバックをいただくことで今後求められる本質的なことが明確になりました。
- 他大学や先輩、薬学(医療)関係者の方が考えている想いを共有することができたこと。
- 他大学の薬学生に囲まれて、同ステージにいる人たちと思われた中で、進路、考えが多様なことを改めて知れて良かった。考えたことのない意見に触れられたこと
- 他大学との交流。熱意ある先生方の講義。
- 他大学の学生と議論をかわせた。こんなにも熱意を持った学生が全国にいるんだと知ることができた。未来は誰かが用意するものではなく、自分で創っていくものだと感じることもできた。
- 距離的に遠く会えない人、普段会えない人と話すことができて良かったです。
- 日本中に沢山いる同士たちと交流できたこと。自分や自分の大学内にはない考え方や意識やその高さを知ることができたこと。素敵な友達が増えたこと。
- 意欲のある学生が多く、ディスカッションが楽しかったこと
- こんなにも真剣に他大学の薬学部、先生方と熱く勢いのある語り合いができ、本当に嬉しく思っている。大変良い刺激になりました。
- 意識の高い仲間とともに現在直通している問題から、未来について語り合うことができ、良い機会だった。
- 自分の大学のみではなく、全国に薬学生と話すことができ、薬剤師の将来像について熱

く語り合うことができ良かったです。とても刺激のなる2日間でした。

●他大学の学生と交流し、自分の大学が積極的に取り組んでいること、自分の大学の良さを知ることができた。様々な進路や背景の学生がどんな意見を持っているか知ることができた。

●他大学の薬学生と交流することは今までなかったので、いろいろな意見や考え方を知れて面白かったです。

●SGDを通して、自分の意見を発信したり短時間で意見をまとめるなど、臨床現場に出た時に必要な力をつけることができたと思います。また向上心のある友人に出会えたことはとても良かったです。

●国家試験のことで頭がいっぱいになってしまっていたが、実際に働く時の事や未来の事を考えることができた。自分で行動して未来を作る必要があることを実感した。

●難しい議題でSGD発表を行ったことで、より薬剤師・薬学について考えるきっかけになりました。他大学の学生との交流で得られたものが大きい。

●発表、発言する訓練の場になった。仲間ができた。日本の政府にも研究が重要であると位置付けていることを認識できた。

●他の大学の人と関わることで良くなった。今までなかった考えにふれることができ、よい刺激になった。

●自分では考えないような視点からの意見を聞いたこと。研究職など他の方向に進む方の考えを知れたこと。

●学校でのSGDでこれほど白熱したことはないので、このような経験ができ、とても良かった。また、これからのこと、自分がしていきたいことを考える良き機会となった。

●普段は同じ学校の人たちの意見しか聞けないが、様々な学校の人から意見を聞いて新しく聞くものも多かった。刺激され、意識が高くなった。

●学校の講義とほとんど同じような内容だったが、意識の高い薬学生がいること知れて、薬学の未来は明るいと思った

●自分の6年間の薬学生生活と今後薬剤師として求められる資質をつなぎ合わせられたこと。

●他大学との交流ができたこと。様々な道へ進む(進んだ)人たちの話を聞くことができた。薬学に対して熱意をもっているひとたちと話せて自分のモチベーションアップにつながった

●よりよい社会を目指して話し合う機会があったことに感謝します。また、厚生労働省の方から生の話を聞いてリアルタイムで聞くことができて自分の為になった

●様々な大学の人と話す機会ができた

●他大学との交流ができ、自分なりに価値観を導入できたこと

●今回に限らないとは思いますが、参加者全員の想い、熱意がとても伝わってきてすごく刺激になりました。

●他の大学方と会って、それぞれの考えをSDGや発表を通して知ることができるのは、いつも自分の大学の中において勉強することでは得られない気づきを見つけることができる良い機会となりました。自分視野や考え方を広げることができたと思います。また、自分の視点でどう行動するかを考えることが大事だと感じました。

3. 今回のワークショップの問題点と思われることをお書きください

●最後のまとめのグループ発表が2分と少ないように感じた

●ディスカッションの時間が短い

●ワークショップの時間が短い

- 私はⅠ班だったがⅡ～Ⅲ班の学生とディスカッションできたのが情報交換ぐらいだったので他班の意見も聞きたかった（ただし実施可能性は…）
- 発表の時間が短いため、伝えたいことが十分に伝えきれなかった
- 日程がタイト
- 非常に有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございます。
- 最後の 3P 時の発表時間が短い
- セッションのディスカッション内容を細かく区切りすぎだと思う
- 班によるかもしれませんが、KJ 法の文章化に割ける時間が少ない
- 薬剤師系だけでなく、他（多）職種の学部とのワークショップもありだと思う。あと、考える時間はもう少し欲しいところ
- 一番最後のディスカッション、ワークに対する発表が短すぎます。他の班が時間をかけブラッシュアップした意見なのに 2 分間ではほとんど頭に入りません。貴重な機会だからこそ、5 分はみてもいいように思いました。
- 講義資料や作業説明資料は事前に配布してからのの方が直接そこに重要なことを書き足せると思いました
- Ⅰ～Ⅲに分けられていて、他グループと関わる機会があまりなかったこと
- 出したアウトプットの共有が最後かなり駆け足になってしまったこと。特にⅠ班内での共有も駆け足だったので A～C での発表後、全体で総合しディスカッションする時間がもう少しあればまとめておしてより勉強になったような気がします。（そこまでは 5 分ディスカッションが 3 分ディスカッションになっていたのでは…）
- 時間が短いと感じる部分があった。テーマが曖昧だったため、もう少し明確にしてほしい
- SGD の時間がタイト
- 質疑応答や発表の時間をもう少し長くしてほしかった
- いくつかのディスカッションをやるときにテーマが漠然としていたので何を考えればよいかということが難しかった
- 1 日目で 20 年後の未来についてさんざん考えた後に、20 年後なんてわかりませんと言われても困る。日程がタイトすぎる。講演の間に 1～2 分でも良いので休憩が欲しい。
- 気楽でよいと最初に聞いていたが、欲しい系統の回答が実はあって…という印象であった。求める系統がある場合は提示してほしい。また、モチベーションが上がる。
- まとめの時間（3P による発表）が短いと感じました。各班で考えたテーマを他の班を介してディスカッションする時間は多めに必要であると思いました
- 時間配分に問題があったと思う。最終日の 3 班分の発表を 2 分で行うのは伝わらないと思う
- もう少し国立大学の大学生がいても良いかなと感じた
- 2 日目の午後の発表時間（P：3 分、3P：2）どちらも短すぎて、せっかく話した内容を十分に伝えられないです。特に 3P の方は短すぎて何も伝わらないです。
- 周知があまりされていない。とても勉強になるのでもっと希望者が参加できるものであればいいと思います（ほとんどの人が先生に個人でお話をいただいているのため）
- KJ 法の時間が短かった。まだ SGD に不慣れな段階だったのでタイムキープなど、最初にきちんとできたら良かった。P の発表の時に質問が止まってしまうことがあったので、タスクフォースの先生からも質問や意見をもう少しいただけたら良かったです。
- 他の P の発表を最後だけではなく、途中の段階から聞いてみたかった。参加していない学生話し合った内容を知らないし、考える機会がないことが勿体なく感じます。
- 他のグループとの話し合いの時間が短い

- 今回Ⅱグループだったが、Ⅰ、Ⅲグループとの交流の機会が少ないと感じた
- 討論の時間が短く、ⅠやⅢの人と交流が少なかった点
- すべての人と交流できたわけではないのが少し気になりました。グループ替えがあってもいいのかなと思いました。
- 自分の2グループ以外の1,3グループとも討論をもう少し行う機会が欲しかった
- 班替えしてももう少しいろいろな人とはなしてみたい。日数があと2日くらいほしいです
- 年に1度と限らず、このような場がたくさんあればうれしいです。
- 時間が短すぎる。まとめようと意識をしすぎて論点がずれたり、まとまらなかったりしてしまう。また、「20年後」なのか単に「未来」なのかテーマが先生によってズレているので、そこは困惑した。
- だんだん話し合いの主導権を握る人が固定されてきてしまったこと。もっと自由に話し合える方がよかったと思った。
- 1つ1つの討論の時間が短いです。まとまらないまま発表になってしまうのでもう少し長い方がいいと思いました。
- 発表までのタイムスケジュールが短いと感じたが、その中で考えをまとめることの重要性和時間の有効利用の難しさを感じ、今後の国試、研究、その他でも生かせると思う
- 時間が足りなかった
- 時間が短いと思われる時があった。情報交換会の時、各テーブルい卒業生や先生方を配置するなどしてもっと話しやすい場にしてほしかった。
- セッションをまとめてから発表するまで過程が学生だけの議論では時間不足になりがちだったので、タスクフォースに誘導して頂けると良いと思った。
- 議論する時間が短い。Ⅰグループ、Ⅱグループの人と交流する時間がもう少しあると良いと思いました。
- バトル感が強く感じた。夏場なのに水分補給もできないくらいタイトなスケジュールはどうか？司会役、発表者など、やりたい人がやるべき。名札はふりがなを是非ふってください。向いていない人に無理にやらせるのはどうか？（そういう雰囲気は否めなかった）
- トイレに行けない。机が欲しい。
- 薬学以外からの視点も必要かと思った。社会での立ち位置、どれくらい薬剤師が社会に必要とされているかという現実を見たうえで冷静に客観的にディスカッションすることが必要だと思った。
- 20年後の未来を考えるのは少し難しかった
- 意識の高い人の意識をさらに高めるだけではなく、意識の低い人を意識高くすることも大切だと思います。
- トイレに行けるタイミングが少ない。薬剤師志望の人が多すぎて、議論の中心がそっちに持っていかれるため、薬剤師を志望していないとディスカッションには入れない。
- 参加者全員との交流時間がやや少ないと感じました
- もっと話し合いたかった
- 他のⅠ、Ⅱグループの人とももう少し話してみたかったです。Ⅲグループメインになったので…

4. その他のご意見（ご自由に）

- 教授を交えたグループ討論も作るのもありだと思います
- ご飯がおいしかったです
- 一校一人とは言わず、もっと多くの学生が参加できれば良いと思いました
- 移動が大変なのでアクセスの簡単なところでやってほしかった。北海道からはきつい。

- 友達ができて楽しかったです
- 2日間という短い間でしたが多くの方と交流することができ、今までにないくらい楽しい時間を過ごせました。今後、研修や自己研鑽を引き続き行い、未来に向かって羽ばたいていきたいです
- 良い刺激を受けました。ありがとうございました。
- 全国の薬学部生の考えなどを聞いていい刺激になりました
- 医師、看護師の声も聴きたい
- 2日間ありがとうございました
- 大変充実した内容でした。だからこそ、他の先生方の講演中に後方で小話をされている先生方の声が非常に気になりました。誰のための学生フォーラムなのか、タスクフォースの先生方も含め、もう一度吟味・自覚すべき事項があるのではないかと思いました。
- 地域規模（九州地区、関東地区、etc…）でのこういったワークショップもぜひ開催してほしいです。将来近いエリアで働く薬剤師さんと繋がりもできたり、同期と意見交換できたり、面白いと思います。
- 学生側のモチベーションが若干緩い感じだったので、コンペ形式にするなど、学生側の目標をわかりやすく置くとポテンシャルの高い方ばかりなので、より充実したワークになったかもしれないと思いました。（コンペ形式にすると和やかな空気感が崩れてしまうかもしれませんが）個人的にはとても勉強になりました。ありがとうございました。
- とても良い経験をさせていただいたため、このワークショップの内容を参加していない他の学生にも報告するべきだと思う
- 様々な大学からきた薬学生と出会い、仲良くなり、意見の出し合いによって互いに刺激をもらうことができとてもよかったです。また、大学の講義ではでてこないような概念や政府の未来への構想についてもしることができ、とてもよかったです。参加してよかったです。
- 他の大学の学生や、様々な役割を担っている方々のお話を聞くことができ、刺激をたくさんもらったので今後も続けていきたいです
- 今回たくさんの意見を聞き、自分にはない考えを取り入れられました。私たち学生が主体となる気持ちが大切だと実感しました。私の大学の学生・教授にその気持ちの大切さを共有したいと思います。
- 最初は不安でしたが、同級生とすぐ打ち解けられ、これだけ熱く語りあえたことが本当に今後に生かしていかなければもったいないと思った。せっかくの出会いを大切にしたい。
- 6年制の2年は、4年+研修2年ではダメだったのか？疑問を持つ人が多かった。
- ワークショップを通して、他大学の人や先生方、関係者の方々と交流できてとても貴重な体験になりました
- 6回生だけでなくその他の学年も行ったら良いと思う
- 厚労省の方や文科省の方など、普段お話を聞けない方のお話を聞いて良かったです。
- 勉強・国家試験合格ばかりを掲げて大学生活を過ごしてしまっていて、頭が固くなってしまっていると自覚しました
- 食事○ 部屋○ 立地×
- 研究はどこにいてもできる。（大学院でなくても）自分から発信していく姿勢が大切だと思った。
- 本当に熱い討議や皆の想いが知れたと思うし、ぜひ学校に戻ってから今回の経験を糧に研究・学びを励みたいと思う
- 2日間とても楽しかったです。また機会があれば参加させていただきたいです。
- 2日間とても充実した時間を過ごせました。ありがとうございました。

- 医学生向けのセミナーに参加することがあり、そこで優しい医学生とチームについて接することはあるのだけでも、薬学部同士で薬剤師のことについて特化して競り合うというのは、大学でもなかなかしていないし、レベルの高い話を聞いて良かった。そしてもう少しついていけるような自分の研鑽とかが必要と思いました。あと積極性。
- 全国の学生と交流、議論ができるこのような機会は今後も継続してほしいです。
- 他グループとの交流がなかなかできませんでしたが、時間的にしかたがないと思います。何か良い解決策があればいいなと思います。
- 2泊3日がいい（もしくは年に2回以上やりたい）
- 20年後の未来を考えるには、今現在のこと最先端の事を知っておかなければならないと思う。知らないうちに議論を行っても「それって5年後には…とか今やってるし、やらなければいけない事」という感じに思ってしまった。いろいろの意見を聞くことが改めて大切だと思えました。
- 2日間（では正直足りませんでした）大変意味のある、今後の人生の価値観を変える経験を得る機会をくださり、本当にありがとうございました。
- とても貴重な経験をさせていただき、参加して本当に良かったです。ありがとうございました。
- 他大学の生徒だけでなく、先生や厚労省に方などに様々なお話を聞くことができとてもいい刺激を受けました。これから未来を作っていくために「自分で」考えて行動していきたいと思います。ありがとうございます。
- 2日間ありがとうございました。あと1日欲しかったです。
- 厚労省やPMDAなどで実際に働いている方たちの意見を聞いて良かった。
- とても有意義な2日間でした。
- 自分の考えの浅さに気づいた。皆、すごく深いことまで考えていてすごいと思った。
- みなさん、自分の意見があり、自分の未熟さを痛感した
- 「結局、自分たちで答えのない予測不可能な未来を創るためには、知識、経験、熱意を駆使して新たな知（エビデンス）を創っていかなければならない」←これを学ぶことができたが、2日目のプログラムでは学びが発展しなかった。
- もう少し他の班と交流できる時間があるといいなと思った。このWSに参加できて本当よかったです。
- まずは口を動かさずに行動していきます。本日は誠にありがとうございました。また参加したいと思っております。
- もっといろんな学生議論するタイミングがあってもいいと思った
- 非常に勉強になる機会だと思います
- はじめは緊張したが、とても良い経験になりました。2日間ありがとうございました。

「薬剤師として求められる基本的な資質」 に関するアンケート

質問1 6年間の薬学教育を通じて、以下の1～10に示す「薬剤師としての基本的な資質」が、現時点で身についた(成長した)と思いますか？ 自己評価欄の該当すると思われる数字に○をつけてください。

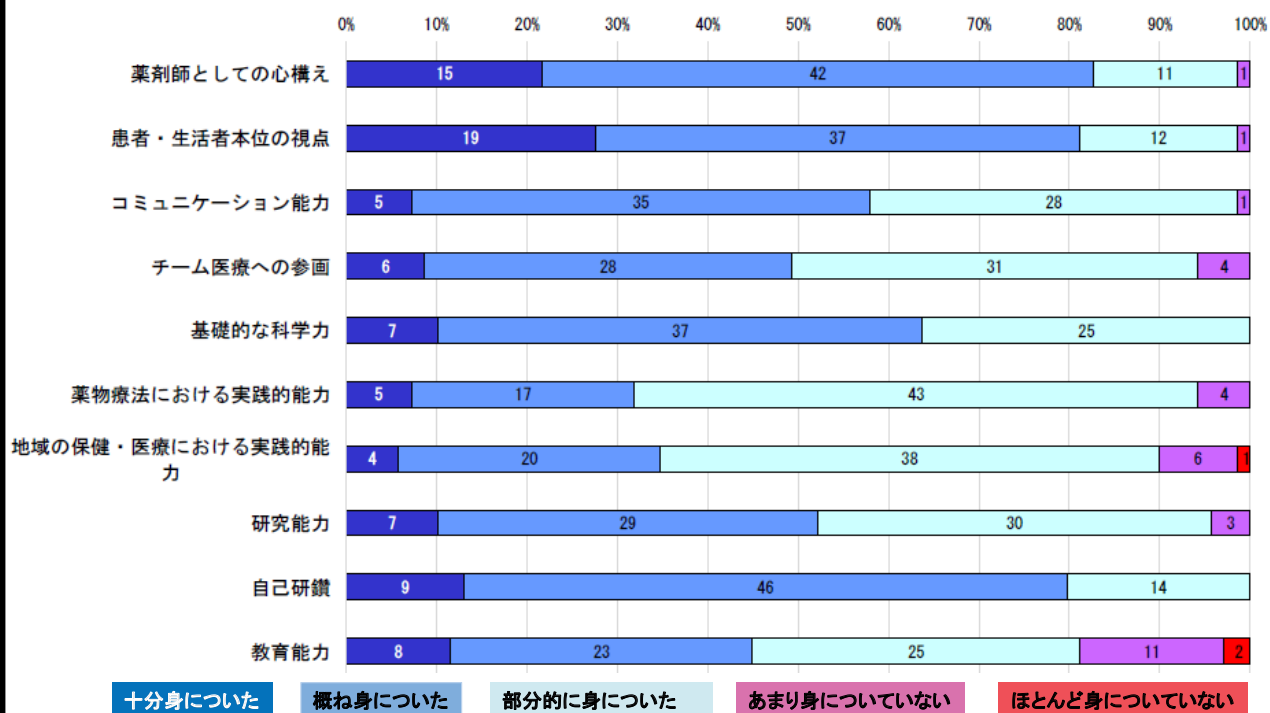
薬剤師として求められる基本的な資質

豊かな人間性と医療人としての高い使命感を有し、生命の尊さを深く認識し、生涯にわたって薬の専門家としての責任を持ち、人の命と健康な生活を守ることを通して社会に貢献する。6年卒業時に必要とされている資質は以下の通りである。

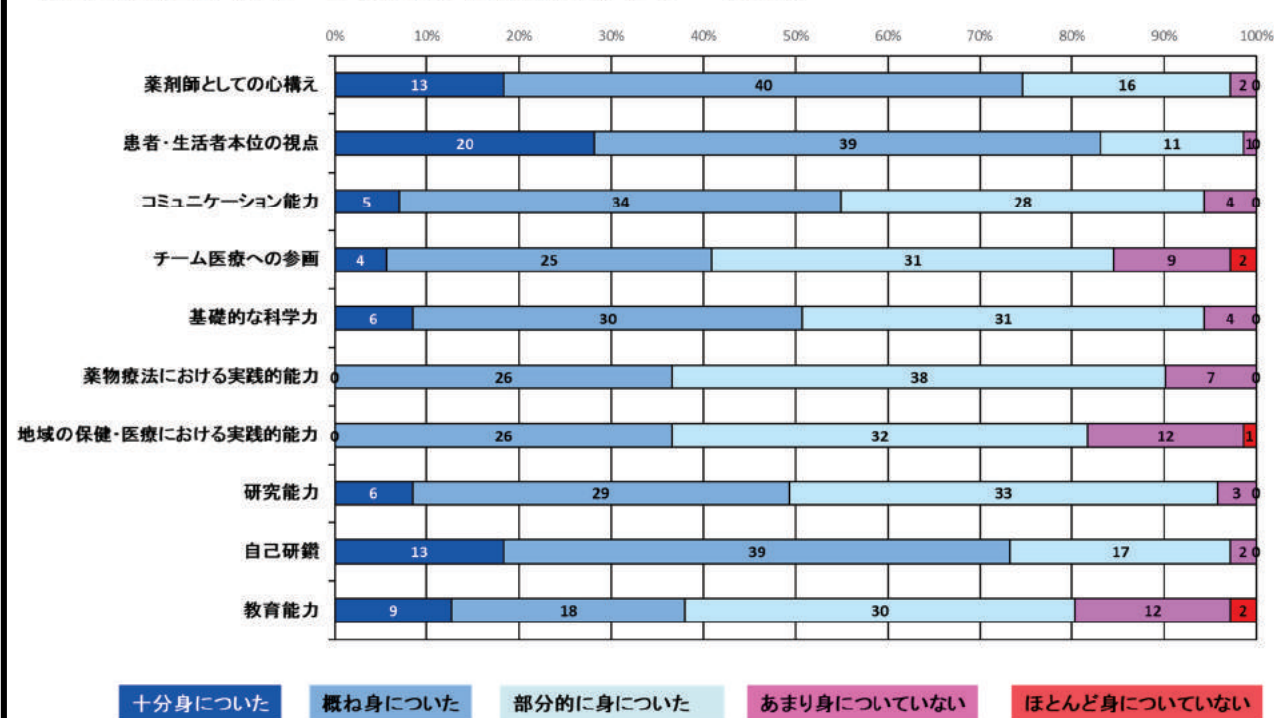
あなたの自己評価は？

	ほとんど身につけていない	あまり身につけていない	部分的に身についた	おおむね身についた	十分に身についた
1. 薬剤師としての心構え 医療の担い手として、豊かな人間性と、生命の尊厳についての深い認識をもち、薬剤師の義務及び法令を遵守するとともに、人の命と健康な生活を守る使命感、責任感及び倫理観を有する。	1	2	3	4	5
2. 患者・生活者本位の視点 患者の人権を尊重し、患者及びその家族の秘密を守り、常に患者・生活者の立場に立って、これらの人々の安全と利益を最優先する。	1	2	3	4	5
3. コミュニケーション能力 患者・生活者、他職種から情報を適切に収集し、これらの人々に有益な情報を提供するためのコミュニケーション能力を有する。	1	2	3	4	5
4. チーム医療への参画 医療機関や地域における医療チームに積極的に参画し、相互の尊重のもとに薬剤師に求められる行動を適切にとる。	1	2	3	4	5
5. 基礎的な科学力 生体及び環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要な科学に関する基本的知識・技能・態度を有する。	1	2	3	4	5
6. 薬物療法における実践的能力 薬物療法を主体的に計画、実施、評価し、安全で有効な医薬品の使用を推進するために、医薬品を供給し、調剤、服薬指導、処方設計の提案等の薬学的管理を実践する能力を有する。	1	2	3	4	5
7. 地域の保健・医療における実践的能力 地域の保健、医療、福祉、介護及び行政等に参画・連携して、地域における人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を有する。	1	2	3	4	5
8. 研究能力 薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を有する。	1	2	3	4	5
9. 自己研鑽 薬学・医療の進歩に対応するために、医療と医薬品を巡る社会的動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する。	1	2	3	4	5
10. 教育能力 次世代を担う人材を育成する意欲と態度を有する。	1	2	3	4	5

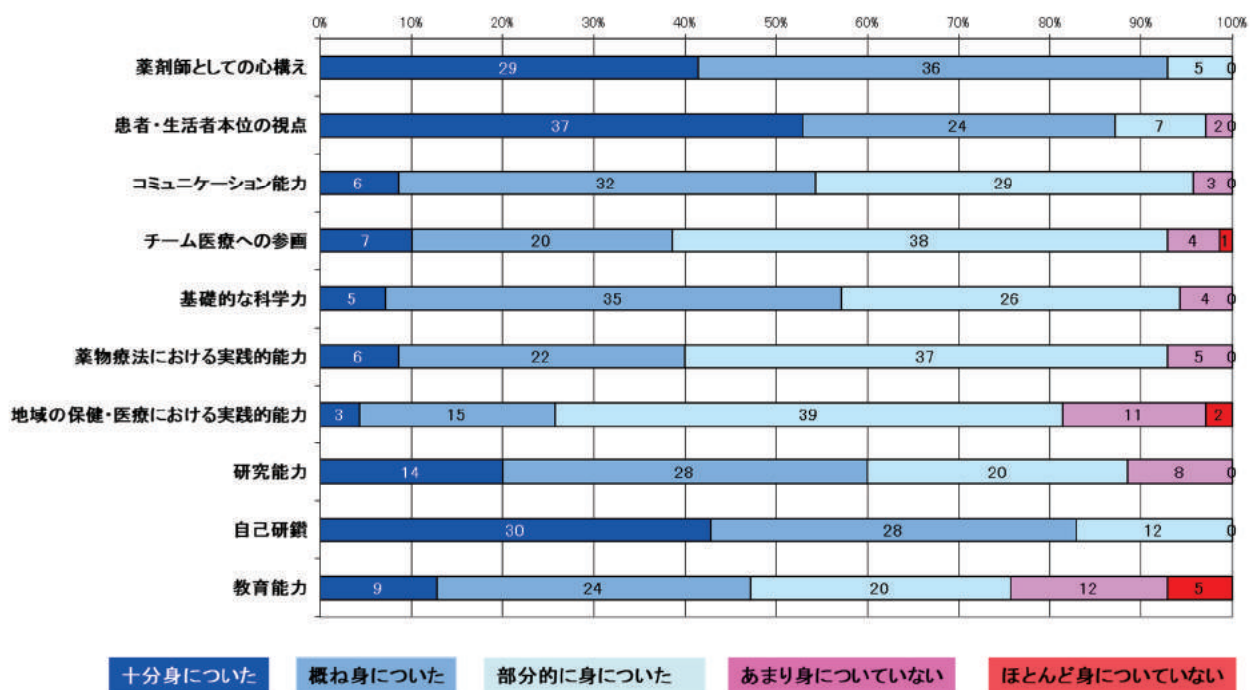
第9回全国学生ワークショップ参加者のアンケート結果



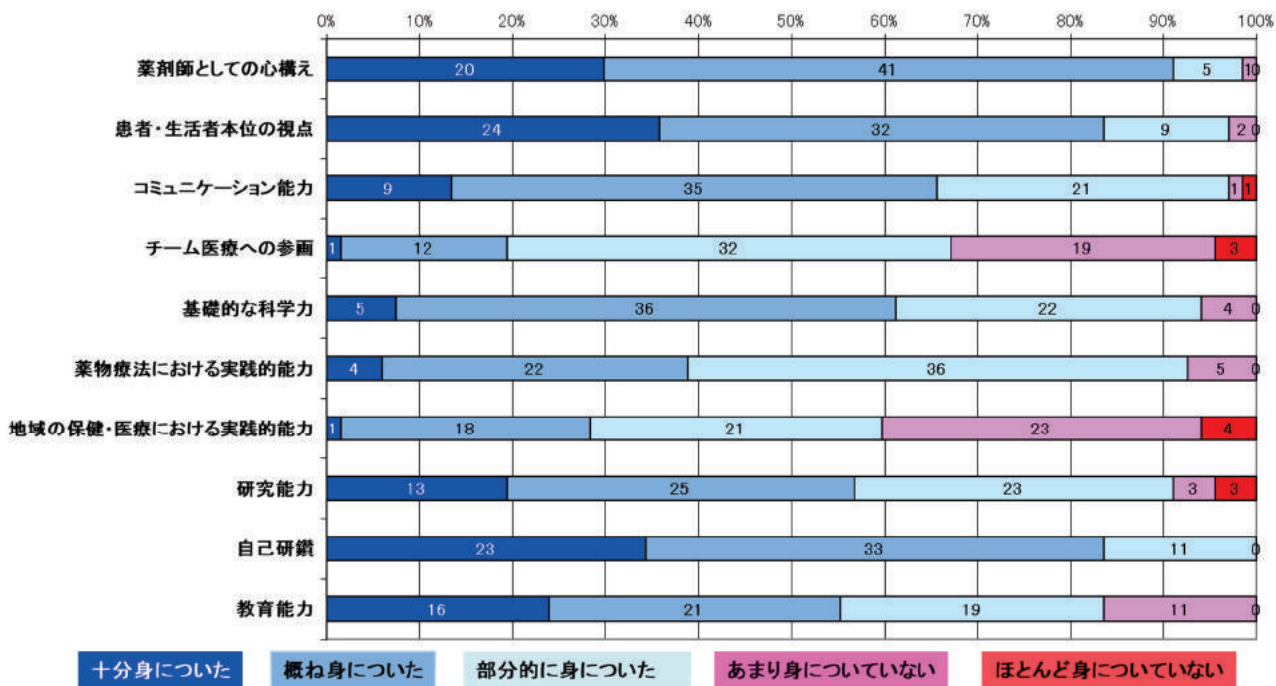
第8回全国学生ワークショップ参加者のアンケート結果



第7回全国学生ワークショップ参加者のアンケート結果



第2回全国学生ワークショップ参加者のアンケート結果



日本薬学会 第9回全国学生ワークショップ

「医療そして社会への貢献～私たちが未来を創ろう～」報告書

発行： 2020年2月 公益社団法人 日本薬学会